

東京外國語學校一覽

目次

一 學年曆

一 沿革概畧

一 官制官等俸給令及職員定員

一 本校職員

一 本校規則

總則

學級學科課程

學年學期及休業規程

入學在學及退學規程

試業進級及卒業規程

授業料規程

副科規程

特待生規程

獎學金貸附規程

別科規程

寄附金

一 生徒心得

一 本校生徒現員

一 本校生徒科別及年級表

一 本校生徒年齡表

一 本校生徒府縣及族別表

一 本校別科卒業生

一 本校略圖



學 年

曆

(自明治三十二年九月十一日至明治三十三年九月十日)

全	三十二年九月十一日
全	九月廿三日
全	十月十七日
全	十一月三日
全	十一月廿三日
全	十二月十七日
全	十二月廿四日
全	十二月廿五日
全	三十三年一月七日
全	一月八日
全	一月三十日
全	二月十一日
全	三月廿一日

第一學期始

休業(秋季皇靈祭)

同(神嘗祭)

同(天長節)

同(新嘗祭)

第一學期試驗始

第一學期終

冬期休業始

冬期休業終

第二學期始

休業(孝明天皇際)

同(紀元節)

休業(春季皇靈祭)

全	三月廿五日	第二學期試驗始
全	四月三日	休業(神武天皇祭)
全	四月十日	第二學期終
全	四月十一日	第三學期始
全	六月廿四日	第三學期試驗始
全	七月十日	第三學期終
全	七月十一日	夏期休業始
全	九月十日	夏期休業終
全		學年終
全		休業

東京外國語學校一覽

沿革概略

本校ハ明治三十年四月高等商業學校ニ附屬トシテ設ケラレ全月文部省直轄諸學校官制改正ニ依リ神田乃武主事ヲ命セラル全月文部省直轄諸學校職員定員改正ノ際
 本校ノ職員ヲ定メテ
 七月規則ヲ制定シ英佛獨魯西班牙清朝鮮ノ七科ヲ設ケ生徒
 區別シ正科ヲ三ヶ年特別科ヲ三ヶ年以内ノ修業年限トナシ
 九月ヨリ實施セリ全月
 十二月四月四日勅令第百十六號ヲ以テ本校ヲ東京外國語學
 校ニ改稱シ全日勅令第百十八號ヲ以テ本校職員定員ヲ定メラレ全月五日神田乃武
 校長心得ヲ命セラル全月廿一日神田乃武校長ヲ命セラル此月校舍ヲ錦町三丁目十
 四番地ニ移シ規則ヲ改
 正シ更ニ伊語ノ一科ヲ加ヘテ八科トナシ特別科ヲ別科ト改
 メ其修業年限ヲ二年トナシ此月ヨリ實施セリ

官制

勅令第八拾六號(明治二十六年八月廿四日公布)
 文部省直轄諸學校官制(本校ニ關スル分抜抄)

第一條 文部省直轄諸學校ハ高等師範學校、女子高等師範學校、札幌農學校、高等商業學校、第一高等學校、第二高等學校、第三高等學校、第四高等學校、第五高等學校、東京工業學校、東京外國語學校、東京美術學校、東京音樂學校、大坂工業學校及東京盲啞學校トス(明治二十九年勅令第二百二十六號、同勅令第二百九十八號、同三十二年勅令第一百十七號ヲ以テ本條改正)

第六條 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

教授

助教授

書記

第七條 校長ハ勅任又ハ奏任トス、文部大臣ノ命ヲ受ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第八條 教授ハ勅任又ハ奏任トス、生徒ノ教授ヲ掌ル

助教授ハ判任トス、教授ノ職務ヲ助ク

第九條 書記ハ判任トス、上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第十七條 專任教官中其學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

第十九條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其委員ハ文部大臣之ヲ命ス

勅令第八十七號(明治二十六年八月二十四日)

文部省直轄諸學校職員定員(披抄)

東京外國語學校(明治三十二年四月四日勅令第一百十八號ヲ以テ改正)

校長 一人

教授 十五人

助教授 八人

書記 二人

文部省直轄諸學校高等官官等俸給令

勅令第十九號(明治三十二年四月四日公布)

第一條 文部省直轄諸學校長ハ高等官二等以下六等以上トス

東京外國語學校長東京音樂學校長及東京盲啞學校長ハ高等官三等以下六等以上

トス

第二條 文部省直轄諸學校教官ハ高等官三等以下トス

文部省直轄諸學校教官(東京外國語學校東京音樂學校)ニシテ五箇年以上高等官三等

ニ在リテ特ニ功勞アル者ハ各校一人ヲ限り高等官二等ニ陞叙セラル、コトアル

ヘシ

第三條 文部省直轄諸學校ノ專任舎監ハ高等官四等以下トシ兼任舎監ハ本官ノ官

等ニ從フ

第五條 文部省直轄諸學校教官ハ其授業ノ時間及學科ノ難易輕重ニ依リ最低額以

下ノ年俸ヲ給スルコトアルヘシ

第六條 文部省直轄諸學校教官ニシテ一校若クハ數校ヲ教官ヲ兼任スル者ニハ本

官并兼官ニ於ケル授業ノ時間及學科ノ難易輕重ニ應シ其本官ノ俸給ヲ分轄シテ

各校ヨリ支給スルコトアルヘシ

第七條 文部省直轄諸學校官制第十七條ニ依リ某學科ノ授業ヲ擔任スル囑託講師

ニハ教官俸給額ノ内ヨリ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

勅令第九十六號 明治二十六年九月九日

帝國大學及文部省直轄諸學校ニ於テ學科教授ノ必要アルルハ帝國大學總長及直轄
諸學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ雇外國人ヲシテ教官ノ職務ニ當ラシムルコトヲ得

文部省直轄諸學校長舎監特別任用令

勅令第百十三號(明治三十年四月二十二日公布)

文部省直轄諸學校長ハ一箇年以上奏任教官ノ職ニ在リタル者ニ限り同舎監ハ左ニ
掲クル者ニ限り試験ヲ要セス文官高等試驗委員ノ詮衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

一 一箇年以上奏任教官又ハ奏任官待遇ノ教職ニ在リタル者

二 三箇年以上判任教官又ハ判任官待遇ノ教職ニ在リタル者

職員

英 露 露 獨 獨 韓 露 獨 佛 英 英
語 語 語 語 語 語 語 語 語 語 語

校長 教授

マスター、オフ、アーツ
(アムハースト大學)
ドクトル、オフ、フキロソフ井一(シカゴ大學)

男 爵 神 田 乃 武	東京府華族
男 爵 神 田 乃 武	東京府華族
淺 田 榮 次	東京府士族
吉 田 義 靜	熊本縣士族
山 口 小 太 郎	東京府士族
古 川 常 一 郎	東京府士族
山 崎 英 夫	長崎縣士族
水 野 繁 太 郎	岡山縣士族
山 口 弘 一	東京府士族
長 谷 川 辰 之 助	東京府士族
鈴 木 於 兔 平	東京府平民
村 井 知 至	愛媛縣士族

外國教師 就職順

露 清 英 佛 西 韓 伊 獨 全 清 衛生監督 清 語

カンガダートス、フキロソフ井一
(メテッサ帝國大學)
バチユラー、オフ、アーツ
(ケムブリッヂ大學)
バシユリエー(アカデミー、ド、パリ)
バチラー、エン、フキロソフ井一、イ、レトラス、イ、
カテドラーチコ
ドクトル、フキロソフ井一

ウラヂーミル、フアメンコ	露 國 人
ロナールド、フランリース、マツケロー	英 國 人
ホー、ル、ジャクレ	佛 國 人
フランシスコ、ゲリソリヤ	西 班 牙 人
柳 菫 根	韓 國 人
アルフォンソ、ガスコ	伊 太 利 人
エミル、マツチーゼン	獨 逸 人
尹 致 肝	韓 國 人
趙 協 慶	全 人
曹 自 元	清 國 人
中山 森 彦	東京府士族
宮 島 大 八	山形縣士族

講師 就職

職員

七

佛 語
清 語
英 語
全
佛 語
經 濟 學
伊 語
西 班 牙 語
教 育 學
清 語
伊 語
佛 語
西 班 牙 語

法律博士 神 藤 才 一 神奈川縣平民

劉 雨 田 東京府士族

牛 田 豐 三 郎 東京府士族

松 田 一 橘 東京府士族

陸軍大學教授 庄 司 鐵 造 神奈川縣平民

法學博士文學士 天 野 爲 之 東京府士族

伊 東 平 藏 東京府士族

篠 田 賢 易 東京府士族

高等商業學校教諭 樋 口 勘 次 郎 長野縣平民

日 高 賢 吉 郎 長崎縣士族

農商務省技手 吉 田 秀 男 東京府平民

鶴 田 久 藏 東京府平民

助教授 檜 山 剛 三 郎 東京府平民

西 班 牙 語

軀 操 高等商業學校 長谷川 福 橘 東京府平民
全 全 鈴木 虎 之 助 東京府士族
全 村上 久 吉 廣島縣平民
會計課主任 事務員
高等商業學校 書記 小澤 銀 十 郎 長野縣士族
書記 岩 田 信 作 新潟縣平民
全 書記 西 村 正 立 静岡縣士族
庶務課主任 全 書記 金 子 水 哉 福井縣士族
學生掛 講師 牛 田 豐 三 郎 京東府士族

東京外國語學校規則

第一章 總 則

第一條 本校ハ歐洲及東洋近世語ヲ教授スル所トス
現今ニ於テハ英語佛語獨語露語伊語西語清語韓語ヲ教授ス

第二條 本校生徒ノ修學年限ハ三箇年トス

第三條 本校ニ別科ヲ置ク其規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二章 學科課程

第四條 本校ノ學科及課程ヲ定ムルコト左ノ如シ

各語學科課程

第一年 第二年 第三年

語學 每週二十四時間

體操 同 三時間

但シ清語學科、韓語學科ニハ此外ニ漢文每週三時間ヲ課ス

佛、獨、露、伊、西、清、韓語學科二年級以上ノ生徒ハ其志望ニ依リ英語ヲ兼修スルコトヲ得

第五條 本校生徒ハ其所修學科以外ノ別科ヲ兼修スルコトヲ得但シ此場合ニハ校長ノ認可ヲ經ルヲ要ス

第三章 學年、學期及休業

第六條 學年ハ九月十一日ニ始リ翌年九月十日ニ終ル

第七條 學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ九月十一日ヨリ十二月二十四日ニ至リ第二學期ハ翌年一月八日ヨリ四月十日ニ至リ第三學期ハ四月十一日ヨリ七月十日ニ至ル

第八條 年中休業左ノ如シ

一 毎日曜

一 秋季皇靈祭

一 神嘗祭

一 天長節

一 新嘗祭

一 孝明天皇祭

一 紀元節

一 春季皇靈祭

一 神武天皇祭

一 夏季休業

自七月十一日至九月十日

一冬季休業

自十二月二十五日至翌年一月七日

一各學期試業後一週間

第四章 入學、在學及退學

第九條 入學期ハ每學年ノ始トス但シ事宜ニ依リ臨時入學ヲ許スコトアルベシ

第十條 中學校程度以上ノ學校ノ卒業生ハ試験ヲ要セズシテ第一年級ニ入學ヲ許ス但シ志願者ノ數豫定人員ニ超過シタルトキハ入學試験ヲ行フ

前項ノ入學者豫定人員ニ滿タサルトキハ其他ノ志願者ニシテ入學試験ニ合格シタル者ヲ以テ之ヲ補フ

第十一條 第二年級以上ニ入學セントスル者ハ先ヅ第一年級ニ入ルニ必要ナル資格ヲ檢定シ更ニ其下級ノ各科目試験ノ上相當級ニ編入スルコトアルベシ

第十二條 入學試験ハ中學校卒業ノ程度ニ依リ中學校所定ノ全學科ニ就キ之ヲ行フ但シ中學校卒業生ノ入學試験ニハ三科以内ヲ省略スルコトアルベシ

第十三條 入學試験ニ於テハ各科目評點數一百ヲ以テ最高點トシ各科目評點數五十以上平均點數六十五以上ヲ得タル者ヲ合格トス

第十四條 入學志願者ハ第一號及第二號書式ニ倣ヒ入學願書并ニ履歷書ヲ差出スベシ

第十五條 入學試験ヲ受クル者ハ試験料トシテ金參圓ヲ納付スヘシ

試験ニ依ラズシテ入學ヲ許サレタル者ハ入學料トシテ金壹圓五十錢ヲ納付スヘシ

本條ニ依リ一旦收納シタル金員ハ入學願ヲ取消スト雖モ之ヲ返附セズ

第十六條 願ニ依リ一旦退學シタル者再入學ヲ請フトキハ入學期ニ於テ原級以下ノ級ニ編入スルコトアルヘシ此場合ニハ第十五條第二項ノ入學料ヲ徵收ス

但原科以外ノ科ニ入學ヲ請フトキハ本條ヲ適用セズ

第十七條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ正副保證人ヨリ第三號書式ニ準シ在學證書ヲ差出スヘシ

第十八條 正副保證人ハ丁年以上ノ男子ニシテ東京府内ニ住居シ一家計ヲ立ツル者又ハ本校ニ於テ適當ト認ムル者ニ限ル

保證人死去若シハ前項ノ資格ヲ失ヒタルトキハ速ニ他人ヲ以テ之ニ代ヘ更ニ

第三號書式ニ準シ證書ヲ差出スヘシ又保證人旅行ヲナサントスルトキハ代理人ヲ定メ其旨ヲ届出ツヘク又府内ニ轉居シ若シクハ改印等ヲナシタルトキハ亦届出ツヘシ

第十九條 生徒校規ニ悖戻シ若シクハ品行不良學業懈怠又ハ疾病等ノ故ヲ以テ成業ノ見込ナシト認定シタル者ハ退學ヲ命ス

第二十條 學年成績ニ不合格ナルコト引續キ再度ニ及フトキハ除名ス

第二十一條 在學中一年志願兵トナリタル者滿期後直ニ復校セントスルトキハ試験ヲ要セズシテ原級ニ編入ス

第二十二條 或語學科ヨリ他ノ語學科ヘ轉スルコトヲ許サズ

第二十三條 退學セント欲スル者ハ保證人連署ノ退學願書ヲ差出スヘシ

第一號書式 (用紙美濃紙)

入學願書

私儀何語學志願ニ付入學御許可被成下度別紙履歷書并ニ卒業證書寫相添ヘ此段相願候也

本籍族職業

(戶主ニアラザル者ハ
何某男又ハ弟等)

氏 名 印

何年何月何日生

宿所東京府 町村番地

年月日

東京外國語學校長氏名殿

第二號書式 (用紙同前)

履歷書

學業

一年月日何地(官公私立)何學校ニ入り何學科何等級修業或ハ全學科卒業又ハ何某ニ從ヒ何學何年間受業用書何々

(卒業證書ヲ有スル者ハ其寫ヲ添付スヘシ)

賞罰

一年月日何所ニ於テ何賞罰ヲ受ケタル等

東京外國語學校規則

以上
年月日

第三號書式 (用紙同前)

在學證書

印紙
貼用

本籍族職業

(戶主ニアラサル者ハ)
何某男又ハ弟等

氏名

何年何月何日生

右之者今般入學御許可相成候ニ付テハ同人在學中ニ係ル一切ノ事件ハ某等ニ於テ相引受可申候也

族籍職業

氏名

住所東京府郡區町村番地

族籍職業

年月日

正保證人

副保證人

東京外國語學校長氏名殿

前書正保證人何某ハ丁年以上ニシテ當郡區内ニ居住シ一家計ヲ立ツル者ニ相違無之候也

年月日

何郡區長 氏名

前書副保證人(以下前同文)

年月日

何郡區長 氏名

第五章 試業、進級及卒業

第二十四條 試業ハ學期試業及學年試業ノ二種トス

學期試業ハ各學期中履修シタル學科ニ就キ第一學期及第二學期ノ末ニ於テ之ヲ行フ

學年試業ハ其學年中履修シタル學科ニ就キ學年ノ末ニ於テ之ヲ行フ

第二十五條 評點ハ各科目一百ヲ以テ最高點トス

第二十六條 各科目ノ學期評點ハ平常點及學期試業評點ヲ以テ算定ス但シ教員ノ

見込ニ依リ平常點ヲ以テ學期評點トナスコトヲ得

第二十七條 學期成績及學年試業成績ハ各科目ノ評點ヲ平均シテ得タルモノトス

第二十八條 學年成績ハ學期成績ト學年試業成績ノ和ヲ三除シテ得タルモノトス

第二十九條 學年試業ニ欠席シタル者ハ其理由及平素學業成績ヲ斟酌シテ追試業

ヲ行フコトアルヘシ

第三十條 每學年ノ末ニ於テ各學期成績五十點以上學年成績六十點以上ノ者ヲ及

第トシ第一年生第二年生ハ之ヲ進級セシメ第三年生ハ之ニ卒業證書ヲ授與ス

第六章 授業料

第三十一條 授業料ハ一學年ニ付金貳拾圓トシ每學年九月二月ノ二回ニ分チ指定

ノ日ニ於テ其半額ヲ徴收ス

第三十二條 授業料納付期日ニ違フ者アルトキハ其保證人ニ通知シ若シ通知ノ當

日ヨリ二週日以内ニ納付セサルトキハ除名ス

第三十三條 一旦納メタル授業料ハ何等ノ場合ト雖モ之ヲ返付セス

第三十四條 病氣其他ノ事故ニ因リテ久シク欠席スルトモ本校ノ學籍ニアル間ハ

授業料ヲ徴收ス

第七章 副科

第三十五條 本校所定學科ノ外更ニ副科トシテ經濟學國際法教育學ノ三學科ヲ置

ク

三年級ノ生徒ハ其志望ニ依リ副科中ノ一學科若シクハ二學科ヲ兼修スルコトヲ

得

第八章 特待生

第三十六條 二年級以上ノ生徒ニシテ學術優等品行方正ナル者ヲ選ヒ特待生ト爲

スコトアルヘシ

第三十七條 特待生ハ授業料ヲ徴收セス

第三十八條 特待生ハ每學年ノ末ニ於テ學年成績ニ依リ校長之ヲ定ム

第三十九條 疾病等ノ爲メ學業ヲ怠リ若シクハ特待生タル品位ヲ傷フヘキ行爲ア

ルト認ムルトキハ特待生タルコトヲ罷ム

第九章 奨學金貸附

第四十條 學力優等品行方正ニシテ學資支辨ノ途ナキ者ハ本人ノ願意ト校長ノ認定トニ依リ一箇年金百圓以内ノ獎學金ヲ貸附スルコトアルヘシ

第四十一條 獎學金ハ有志者ヨリ特ニ寄附シタル金ト返納金トヲ以テ之ニ充ツ

第四十二條 貸附ヲ受ケント欲スル者ハ東京府下ニ於テ相應ノ資産ヲ有スル者ニ名ヲ保證人トシテ校長ニ願出ツヘシ

第四十三條 貸附ヲ受クル者ハ左ノ書式ニ依リ誓約書ヲ差出スヘシ

印紙
帖用

誓約書

私儀本年何月ヨリ何年何月迄金何圓獎學金ノ貸附相受候ニ付テハ御校獎學金貸附規程ヲ固ク遵守可仕萬一違背ノ節ハ保證人連帶ヲ以テ返納金其他一切ノ責ニ任スヘク候仍テ保證人連署誓約如件

東京外國語學校何語學科生

本人 氏 名 ㊦

住所族籍

年月日

保證人 氏 名 ㊦

同 氏 名 ㊦

東京外國語學校校長氏名殿

第四十四條 貸附ヲ受ケタル者ハ卒業ノ翌月ヨリ貸附ヲ受ケタル月數ニ二倍スル期限内ニ於テ其貸附金額ヲ月賦ヲ以テ返納スヘシ

貸附ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ之ヲ返納スルニ及バス

第四十五條 貸附ヲ受クル者學業懈怠品行不良等ノ故ヲ以テ成業ノ見込ナシト認ムルトキハ貸附ヲ罷ム

前項ニ依リ貸附ヲ罷メラルタル者又ハ自己ノ都合ニ依リ退學シタル者ハ其當日ヨリ三十日以内ニ既ニ受ケタル貸附金額ニ對シ一箇年六分ノ利子ヲ付シ全額ヲ返納スヘシ

第四十六條 貸附ヲ受クル者修學中疾病ニ罹リ成業ノ見込ナシト認ムルトキハ貸附ヲ罷ム此場合ニハ既ニ受ケタル貸付金額ハ第四十四條第一項ニ依リ之ヲ返納

スヘシ

第四十七條 總ヘテ返納金ハ本人之ヲ納メサルトキハ保證人ヨリ辨償スヘシ
第四十八條 保證人死去又ハ東京府外ニ轉居スルカ若クハ其資産ヲ失フタルトキハ速ニ代人ヲ立テ誓約書ヲ書換ユヘシ

別科規程

第一條 別科ハ速成ヲ旨トシ本校所定ノ各語學ヲ教授スル所トス
第二條 別科ハ職業ヲ有スル者若シクハ其他特別ノ事情アル者ニ限り校長ノ意見ニ依リ入學ヲ許ス
第三條 別科ノ修學年限ハ二箇年トス
第四條 別科ハ各學期ノ始ニ於テ入學ヲ許ス但シ第二學期第三學期ノ始ニ於テ入學セントスル者ハ前學期ノ學科ニ相當スル學力アルコトヲ要ス
第五條 別科第一年級ニ入ラントスル者ハ入學試験ヲ要セス但シ必要ト認ムルトキハ試験ヲ行フコトアルヘシ
第六條 別科生ハ入學試験ヲ要スルト否トニ關セス入學料トシテ金壹圓ヲ納付ス

ヘシ但シ第二章第五條ニ依テ兼修スル者ハ入學料ヲ要セス

第七條 別科生ノ授業料ハ一學年ニ付金拾圓トシ第一學期ニ四圓第二學期ニ參圓第三學期ニ參圓ヲ指定ノ日ニ於テ徵收ス但シ第二章第五條ニ依テ兼修スル者ハ本文ノ金額ヲ半減ス

第八條 別科ノ試業ハ第五章ノ試業規程ヲ斟酌シテ之ヲ行フ

第九條 二學年ノ課程ヲ修了シタル者ハ之ニ修學證書ヲ授與ス

第十條 別科ノ授業時間ハ每週十時間以内トス

第十一條 別科ハ別ニ學級ヲ編成シテ之ヲ教授シ又ハ都合ニ依リ本科ト合併シテ教授スルコトアルヘシ

第十二條 入學及退學ニ關スル手續ハ第四章ノ規定ニ依ル

第十三條 此外ノ規程ハ本校一般ノ條規ヲ適用ス

寄附金

本校設置以來金員若クハ物件ヲ寄贈セシモノ左ノ如シ

寄贈若クハ物件及寄贈ノ名義
伊語科生徒獎學貸費金

寄贈者
伊語協會長

生徒心得

- 第一條 校內所定外ニ於テ飲食喫烟スヘカラス
- 第二條 睡ハ睡壺ニ吐クヘシ
- 第三條 帽子外套其他ノ携帶品ハ所定ノ場所ニ整置スヘシ
- 第四條 登校ノ節本科生ハ制服制帽ヲ着用シ別科生ハ洋服又ハ袴ヲ着用スヘシ
- 第五條 病氣其他正當ノ理由ヲ以テ欠課スルルハ當日又ハ次日ニ欠課時間ノ受持
教員ヘ欠課理由ヲ陳言シ其承認ヲ經タル届書ヲ差出スヘシ其病氣ニ週間以上ニ
及フルハ更ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ届ケ出ツヘシ
- 第六條 校長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ校內ニ於テ漫ニ會同スヘカラス
- 第七條 本籍氏名又ハ宿所ヲ變更シタルトキハ速ニ届ケ出ツヘシ
- 第八條 凡ソ告示ハ之ヲ掲ケタル日ヨリ一般ニ知了シタル者ト認ムルヲ以テ常ニ

之ニ注意スヘシ

- 第九條 校舎器具其他校內一切ノ物品ハ專ラ鄭重ニ取扱フヘシ若シ汚損又ハ亡失
ノトアリタルトキハ直ニ其旨ヲ學生課ニ申出テ處置ヲ受クヘシ
前項ノ場合ニ當リ若シ其本人知レサルトキハ一室内又ハ全般ノ者ヲシテ其實ニ
任セシムルコトアルヘシ
- 第十條 規則ニ悖戾スル者他人ヲ煽動シテ校規ヲ紊ス恐レアル者職員ノ命令訓戒
ニ從ハサル者其他苟モ本校生徒タル品位ヲ傷フヘキ言論行爲ヲナスモノハ各其
情狀ニ依リ處罰ス

本校生徒現員

三十二年九月未日調

英語本科第三年級

渡邊謙	三十三重族縣	大塚鷲	雄平埼玉縣	長餘三郎	石川平石川縣
松浦與三	松平福井縣	星野	幹平東京府	奧坂角太郎	島德島縣
高野圭一	茨城縣	森川乙	猪高知族縣	片山	寬士長野族縣

本校生徒現員 英語本科第三年級

芹澤政衛靜岡縣民 星野政吉東京府民

佛語本科第三年級

瀧村立太郎東京府民 宮崎幹太郎大阪府民 武村元藏千葉縣民
竹澤太一千葉縣民 二宮猪象香川縣民 鶴來和之東京府民
山縣彌爾北海道民 金子知良長崎縣民

獨語本科第三年級

田代光雄東京府民 前田清次三重縣民 弓削久兵衛千葉縣民
安樂直治鹿兒島縣民 中村達雄山口縣民 上村啓三鹿兒島縣民
原五郎東京府民 久野英一愛媛縣民 井手岩吉佐賀縣民

露語本科第三年級

山口爲太郎愛知縣民 古澤幸吉北海道民 島田嘉一郎埼玉縣民

鈴木尙三東京府民 籬藤三平埼玉縣民 乙福井福井縣民
秋元義親東京府民 田中 乙福井福井縣民

西語本科第三年級

厚見元治兵庫縣民 金澤一郎兵庫縣民 伊藤信一愛知縣民

清語本科第三年級

岡本正女愛媛縣民 上田三徳東京府民 齊藤勝治佐賀縣民
寺本寅彦熊本縣民 佐藤新太郎山形縣民 滿永鉄熊本縣民 太熊本熊本縣民
島田幹東京府民 河崎武熊本縣民 宮內元千葉縣民

韓語本科第三年級

山口有信愛知縣民 本田存東京府民 加藤勝之助愛知縣民
野邊地菊三岩手縣民 重嶺一祐山口縣民

本校生徒現員 佛、獨、露、西、清、韓語本科第三年級

英語本科第二二年級

上條辰三 平長野縣
金子與三郎 東京府
物津滿壽 大岡山縣
平井隼之助 大阪府
武久郁雄 福井縣
古賀十二郎 長崎縣
權田善一 東京府

中國園修 平神奈川縣
堀中幸之助 石川縣
寺田敏 滋賀縣
熊田武良太郎 福岡縣
國武良太郎 福岡縣
高橋行次 滋賀縣
隅川豐 東京府

青柳幹一 山梨縣
尾上瀧太郎 福岡縣
伴野藤助 群馬縣
齋藤千之助 兵庫縣
長井勇 東京府
高岡讓 和歌山縣

佛語本科第二二年級

成嶋朝一 靜岡縣
加藤秀郷 三重縣
平岡七郎 靜岡縣

仲萬次郎 東京府
井上卍南二郎 東京府
鹽山要正 大阪府

尾花繁太郎 德島縣
松本俊造 千葉縣
兒玉彌彦 鹿兒島縣

獨語本科第二二年級

巖谷春生 滋賀縣
各務守一 岐阜縣
小島文久 靜岡縣

松井幸治 大阪府
藤田完太郎 北海道
高木正次 千葉縣

松島榮 靜岡縣

太田為治 京都府
小橋新治 奈良縣
丸勝藏 千葉縣

岡部良齊 三重縣
佐々木常三郎 宮城縣
荒川潔 新潟縣

永田精一郎 三重縣
磯山健 茨城縣

露語本科第二二年級

井田孝平 東京府
河村國松 岐阜縣
鈴木覺太郎 宮崎縣
西村秀雄 滋賀縣

飯田愿 宮城縣
長谷川作次 石川縣
森啓三 福岡縣
稻垣篤 富山縣

五十嵐清 岡山縣
菅野金三郎 佐賀縣
近藤寶五郎 神奈川縣
和泉良之助 茨城縣

本校生徒現員 英佛獨露語本科第二二年級

西語本科第二級

平松輝太郎 三重縣
丸井三次郎 和歌山縣

河村眞義 熊本縣
永田勝次郎 佐賀縣

森醇 一 佐賀縣

清語本科第二級

永野武馬 長崎縣
阿部生居造 群馬縣
古賀邦彦 佐賀縣
宮川鹿之助 長崎縣
河野讓 東京府
蔭山石五郎 德島縣
永井壯吉 愛知縣

船橋甚一 兵庫縣
青柳義作 新潟縣
曾谷健吾 廣島縣
藤沼周作 栃木縣
若林 明 東京府
池田良榮 高知縣
德永喜三 佐賀縣

奧津銀平 群馬縣
糟谷好助 埼玉縣
稻葉岩吉 新潟縣
岩原大三郎 東京府
今福耐 神奈川縣

韓語本科第二級

西田貞一 大分縣
橫山吏弓 廣島縣

天野雄之輔 滋賀縣
江崎精一 愛知縣

伊藤幸十郎 鳥取縣

英語本科第一級

並河照廣 滋賀縣
堀越岩松 千葉縣
宮崎議平 北海道
淵上巖 福岡縣
鈴木利貞 鳥取縣
御子柴賴一 長野縣
小山田千代壽 青森縣
上杉憲章 東京府

桂田次郎 島根縣
奧村勢一 佐賀縣
野口兼太郎 東京府
湯淺榮實 東京府
大橋榮三 東京府
鈴木木議一 靜岡縣
村岡壽春 鳥取縣
宮島孫三郎 長野縣

青木松之丞 島根縣
關善八 熊本縣
田中恒介 山口縣
西岡達郎 佐賀縣
澁谷治郎 新潟縣
野田久三郎 大坂府
山川行 茨城縣
伊藤正胤 高知縣

本校生徒現員 西清韓語本科第二級 英一年級

廣田千城福岡縣
伊藤常重三重縣
山本英造東京府

秋元正四東京府
小川誠一佐賀縣
小野清一東京府

赤羽淺之助長野縣
里深新八兵庫縣
前田勝三東京府

佛語本科第一年級

松崎彌次郎鳥取縣
西山德太郎東京府
若林耿介茨城縣
守經雄東京府
田久保昌雄熊本縣
淺野千里長野縣
有馬睿次鹿兒島縣
村瀨信次東京府
大內敬一茨城縣

小田精吉東京府
諏澤恒太郎廣島縣
高木利雄沖繩縣
佐藤武則長野縣
毛利良一廣島縣
金崎直衛愛媛縣
坪川近次新潟縣
石谷吉平三重縣
中西乾士靜岡縣

矢橋春造京都府
中川豆介福井縣
笈田敏野福井縣
龜井松太郎大阪府
尾關英一岡山縣
小西喬一和歌山縣
新實太一郎京都府
安明善韓國人
吉田衡士福井縣

獨語本科第一年級

海江田虎次郎東京府
中島龜彦東京府
龜谷竹二東京府
蘆塚利仲長崎縣
笠原正樹長野縣
堀田正次宮城縣
田中正之東京府

高橋元雄熊本縣
井門荒三郎熊本縣
川上武治鹿兒島縣
野田幾太郎福岡縣
青山民子華東府
小杉健次郎山形縣
五明亘長野縣

阪部正藏山形縣
三浦金之助岩手縣
田代五郎東京府
里見太郎長野縣
山本開作神奈川縣
齊木延次郎廣島縣
丹羽弘愛知縣

露語本科第一年級

岩間光次郎東京府
池田鑣太郎大分縣
竹內彌物次三重縣

八木明昌東京府
水野島次郎愛知縣
鮎貝冬雄長野縣

馬場誠之埼玉縣
山口勇太郎長崎縣
原田三平山口縣

本校生徒現員 獨露伊西語本科第一年級

久網小次郎愛知縣知縣
 野村義郎三重縣族
 田中政吉兵庫縣民
 平塚若磨茨城縣民
 股野貫之兵庫縣民
 伊崎千秋岐阜縣民
 村田乙三東京府民
 武林男三大阪府民
 田代錦太郎熊本縣民
 竹內秀三長崎縣民
 日高彦市鹿兒島縣民
 外山光庸京都府民
 市川寅次郎福岡縣民
 澁谷辰三郎長崎縣民

伊語本科第一年級

毛利元正山口縣族
 吉山熊太郎新潟縣民
 粟田三吉東京府民
 山本正雄茨城縣族
 宇野野鉄二愛知縣民
 小林重縣長野縣民
 安生彰平東京府民
 小林立武磨東京府民
 永井義磨神奈川縣民
 安井二郎東京府民
 木村祥造東京府民

西語本科第一年級

遠藤榮東京府族
 小島郁太郎群馬縣民
 中山九萬長野縣族

四枝綱吉鹿兒島縣族
 南秀吉和歌山縣民
 岡田爲三郎平島縣民
 渡部三彦栃木縣族
 竹下未吉平島縣民
 緒形虎雄熊本縣民
 松木賢吉高知縣民
 南喬一兵庫縣族
 波佐谷慶發北海道民
 岡田庫次平島縣民

清語本科第一年級

山川二郎長崎縣族
 松村孫一埼玉縣民
 高島長治福井縣民
 堀田延千代大阪府民
 增井茂松三重縣民
 林要五郎北海道民
 中村兼吉鹿兒島縣民
 大部八洲夫茨城縣民
 寺田山衛愛媛縣民
 佐藤巖手岩手縣民
 松本士農夫福井縣民
 石垣光義東京府民

韓語本科第一年級

多田謙三長野縣民
 伊東四郎東京府族
 鈴木修三神奈川縣民
 福原資孝栃木縣民
 樫村武雄茨城縣族
 綿引鶴松茨城縣族

本校生徒現員 清韓英語本科第一年級 三五

國方章二	藤戶計太	吉田英三
士香川族縣	平長崎民縣	平東京民府
高橋榮吉	千野米作	小野雄志
平岐阜民縣	士東京民府	平岡山民縣
向井光次郎	渡邊倉藏	小野雄志
平和歌山民縣	平福島民縣	平岡山民縣
木下蕃	山本恒太郎	吉田英三
平福井民縣	平東京民府	平東京民府

英語別科第二二年級

渡邊和太郎	齊藤敬義	的場
平神奈川民縣	士東京民府	士和歌山民縣
鳥越盛佐賀	蘆川忠雄	湯目胞
士佐賀族縣	平靜岡民縣	士宮城族縣
牧野啓吾	大高隼太郎	小川勝一
士埼玉族縣	士東京民府	平大阪民府
植木直市郎	中川源三郎	三宅貞勝
平新潟民縣	士京都民府	平東京民府
大角右門	石原和三郎	齊平
平岐阜民縣	士東京民府	平東京民府
小山市太郎	小山英吾	小川勝一
士東京族府	士東京族府	平大阪民府
廣瀬雄士	齊藤政太郎	田中虎雄
士石川族縣	士長野族縣	士埼玉族縣

佛語別科第二二年級

鈴木留次郎	大重齋	井出哲
平東京民府	平鹿兒島民縣	士東京民府
市村環次郎	三戸瀨猷	木下淑夫
平東京民府	士山口族縣	平京都民府
小池善平	德岡梅吉	岡田正之
平新潟民縣	平鳥取民縣	士富山民府
荒木市藏	永持德一	松村吉則
士熊本族縣	士東京族府	士東京族府
服部邦光	鈴木彌次平	神谷龍彥
士長崎族縣	平靜岡民縣	士愛知族縣
福井策三	村井善次郎	松村吉則
士滋賀族縣	平岩手民縣	士東京族府
杉本啓	吉田六之助	神谷龍彥
士東京族府	平千葉民縣	士愛知族縣

獨語別科第二二年級

白井喜之作	堀常次郎	井口龍太郎
平東京民府	平岐阜民縣	士東京族府
小田貞雅	吉原千代吉	佐野靜雄
士東京族府	平新潟民縣	士埼玉族縣
西村鉄骨	井橋佐四郎	松岡定
士岡山族縣	平千葉民縣	士熊本族縣

本校生徒現員 佛獨露西語別科第二二年級

岩崎半治	茨木民縣	南川親祇	和歌山民縣	藤井長藏	三重民縣
儀野清助	東京民府	渡邊春雄	新潟民縣	古田和三郎	茨城民縣
杉山正治	東京民府	中村平作	新潟民縣	片山外與	東京民府
佐野吉作	山口民縣	高田貞三郎	東京民府	大金羊三	栃木民縣
今福耐作	神奈川民縣	野坂喜久松	山口民縣	永井信賢	東京民府
吉田俊造	東京民府	山口又市	新潟民縣	高橋三郎	東京民府
中島松次郎	茨城民縣	歌原兼良	愛媛民縣	德永昌美	東京民府

露語別科第二二年級

大島久吉	群馬民縣	大庭久吉	秋田民縣	岡村清	靜岡民縣
岡部重一郎	東京民府	酒井恒夫	山形民縣	新井田橋太郎	北海道民府
佐伯迅二郎	和歌山民縣	松尾長之助	佐賀民縣	山下榮之丞	鹿兒島民縣

西語別科第二二年級

岡崎隆一	石川民縣	堀口福彦	岡山民縣	渡邊清	東京民府
------	------	------	------	-----	------

清語別科第二二年級

田中慶太郎	京都民府	高岩勘次郎	福岡民縣	泉水信太郎	千葉民縣
龜山玄明	岐阜民縣	村上謙吉	東京民府	中島比多吉	埼玉民縣
鎌田彌介	鹿兒島民縣	佐藤長次郎	埼玉民縣		
大久保家道	東京民府	福崎三次郎	鹿兒島民縣		

英語別科第一一年級

新井長三郎	群馬民縣	福田德藏	岩手民縣	高取聰吉	京都民府
土井八百吉	新潟民縣	綾部勉	宮城民縣	宮田德三郎	東京民府
野尻銓太郎	滋賀民縣	藤田菊次郎	山梨民縣	野原正郎	東京民府
松井英一郎	岐阜民縣	村上三喜二	兵庫民縣	成瀬欽治	東京民府
枝正八	茨城民縣	小野田次雄	東京民府	定平和佐久	岡山民縣

本校生徒現員 清英佛語別科第二二年級 英語別科第一一年級 三九

池谷 万代太郎 東京府
 近藤 孫三郎 長崎縣
 松田 英三郎 福島縣
 佐久間 春雄 兵庫縣
 重見 熊太郎 東京府
 小阪 眞朗 千葉縣
 笠原 實太郎 長野縣
 久保 清太郎 德島縣

早田 佐四郎 新潟縣
 蔭山 石五郎 德島縣
 中村 速一 大阪府
 坪川 近次 新潟縣

佛語別科第一年級

吉尾 勘次 岐阜縣
 石井 德千代 東京府
 石井 淳二郎 東京府
 駒井 長郎 靜岡縣
 石內 紀道 東京府
 岩田 清三郎 京都府
 石井 謙吉 靜岡縣
 伴 宜 北海海民道

喜多野 金助 長野縣
 平賀 讓 廣島縣
 賀藤 玄智 東京府
 青柳 幹一 山梨縣
 田村 保章 茨城縣
 氷上 克己 岡山縣
 三室 戶敬光 京都府
 田中 信吉 京都府

山上 村哲三 鹿兒島縣
 山村 征吉 東京府
 神子 鉄雄 東京府
 石黑 信一 北海道
 高橋 龜吉 東京府
 山田 直光 愛媛縣
 有吉 秀太郎 山口縣
 堀 常次郎 岐阜縣

伊地 知正 鹿兒島縣
 多 久節 東京府
 南 喬一 兵庫縣
 三浦 新七 山形縣
 小林 逸峰 北海海民道

柴野 健作 廣島縣
 島田 直之 滋賀縣
 林 健太郎 愛知縣
 野原 休一 山口縣
 桑去 隴藏 福井縣

宮崎 新吾 長野縣
 佐野 靜雄 埼玉縣
 上條 辰三 長野縣
 高村 光太郎 東京府
 福本 音吉 東京府

獨語別科第一年級

根本 務 宮城縣
 小山 善平 東京府
 藤井 勇吉 東京府
 宮城 清作 茨城縣
 今泉 民吉 宮城縣
 木村 正孝 岡山縣
 永松 壽助 福岡縣

矢野 兼吉 大分縣
 逸見 義教 愛媛縣
 竹村 鍛正 愛媛縣
 木浦 正藏 京都府
 上田 長藏 京都府
 石黑 剛三 新潟縣
 渡邊 輝之助 東京府

保田 久三郎 京都府
 門井 守次郎 東京府
 曾谷 健吾 廣島縣
 門脇 眞枝 島根縣
 宮田 哲雄 茨城縣
 黑田 稻九 群馬縣
 山內 圭一郎 千葉縣

本校生徒現員 獨露語別科第一年級

津崎亥久生 <small>熊本縣</small>	田家秀樹 <small>長崎縣</small>	石井保男 <small>東京府</small>
新海吉兵衛 <small>長野縣</small>	野口援太 <small>福岡縣</small>	福井久藏 <small>兵庫縣</small>
松岡直温 <small>福岡縣</small>	和田猪三郎 <small>長野縣</small>	峰岸米造 <small>群馬縣</small>
松本徳也 <small>東京府</small>	藤本徳之進 <small>山口縣</small>	長谷川乙彦 <small>愛媛縣</small>
川島正一郎 <small>和歌山縣</small>	吉田忠進 <small>和歌山縣</small>	中村緑野 <small>秋田縣</small>
吉田彌平 <small>東京府</small>	土屋尙齊 <small>愛知縣</small>	中川恒太郎 <small>和歌山縣</small>
後藤龜市 <small>東京府</small>	山本尙春 <small>東京府</small>	安藤兼三郎 <small>東京府</small>
中西準太郎 <small>和歌山縣</small>	可兒徳卓 <small>岐阜縣</small>	酒井政吉 <small>石川縣</small>
樺島岬福岡 <small>福岡縣</small>	高橋鐘二 <small>長野縣</small>	乙竹岩造 <small>三重縣</small>
磯江石藏 <small>長野縣</small>	古谷知新 <small>山梨縣</small>	矢津昌永 <small>熊本縣</small>

露語別科第一年級

廣田廣波 <small>東京府</small>	齋藤清太郎 <small>岡山縣</small>	印野兵三郎 <small>福岡縣</small>
松内則信 <small>神奈川縣</small>	生田鑣次郎 <small>東京府</small>	白鳥庫吉 <small>千葉縣</small>

荒木徳之助 <small>東京府</small>	小田岩雄 <small>長崎縣</small>	加藤宗太郎 <small>徳島縣</small>
森珍三 <small>愛媛縣</small>	岩淵幾三郎 <small>千葉縣</small>	長谷川勉二郎 <small>兵庫縣</small>
兩角三郎 <small>青森縣</small>	加藤鎌太郎 <small>鳥取縣</small>	閻傳英 <small>東京府</small>

伊語別科第一年級

稻田健夫 <small>三重縣</small>	平松幾比古 <small>和歌山縣</small>
岩村透 <small>京都府</small>	鈴木彌次平 <small>靜岡縣</small>

西語別科第一年級

中村金藏 <small>東京府</small>	柳下善次郎 <small>神奈川縣</small>
村川堅固 <small>熊本縣</small>	鈴木三郎 <small>千葉縣</small>

清語別科第一年級

小崎乙彦 <small>東京府</small>	杉浦網治 <small>千葉縣</small>	酒詰米次郎 <small>東京府</small>
-------------------------	-------------------------	--------------------------

計

四二、一一

一八、〇〇

四六

二六、〇七

本校別科卒業生

(明治三十年七月)

英語科

(拾貳人)

高橋行次滋賀縣
野一色千七郎靜岡縣
黒川善一東京府
岡田明達愛知縣

大西成太香川縣
黒田茂次郎長崎縣
三宅貞齋東京府
園田辰三郎東京府

小山英吾東京府
小山市太郎靜岡縣
松下專吉靜岡縣
浦壁長富東京府

佛語科

(九人)

服部邦光長崎縣
歸山信順石川縣
宮成大太郎千葉縣

大野若三郎神奈川縣
山内健吉岐阜縣
金光泰平大阪府

新原俊秀宮崎縣
鈴木彌次平靜岡縣
松原常次郎東京府

獨語科

(六人)

幸田成友東京府
松岡定熊熊本縣

中村平作新潟縣
宮田義敬東京府

澤田和義神奈川縣
由崎復平東京府

露語科

(三人)

澤井才治新潟縣

田中與五郎大阪府

西語科

(三人)

津田弘季岡山縣

渡邊清東京府

清語科

(六人)

日高賢吉郎長崎縣
小川運平埼玉縣

鎌田彌助鹿兒島縣
加納政太郎東京府

泉水信太郎千葉縣
坂野竹之助茨城縣

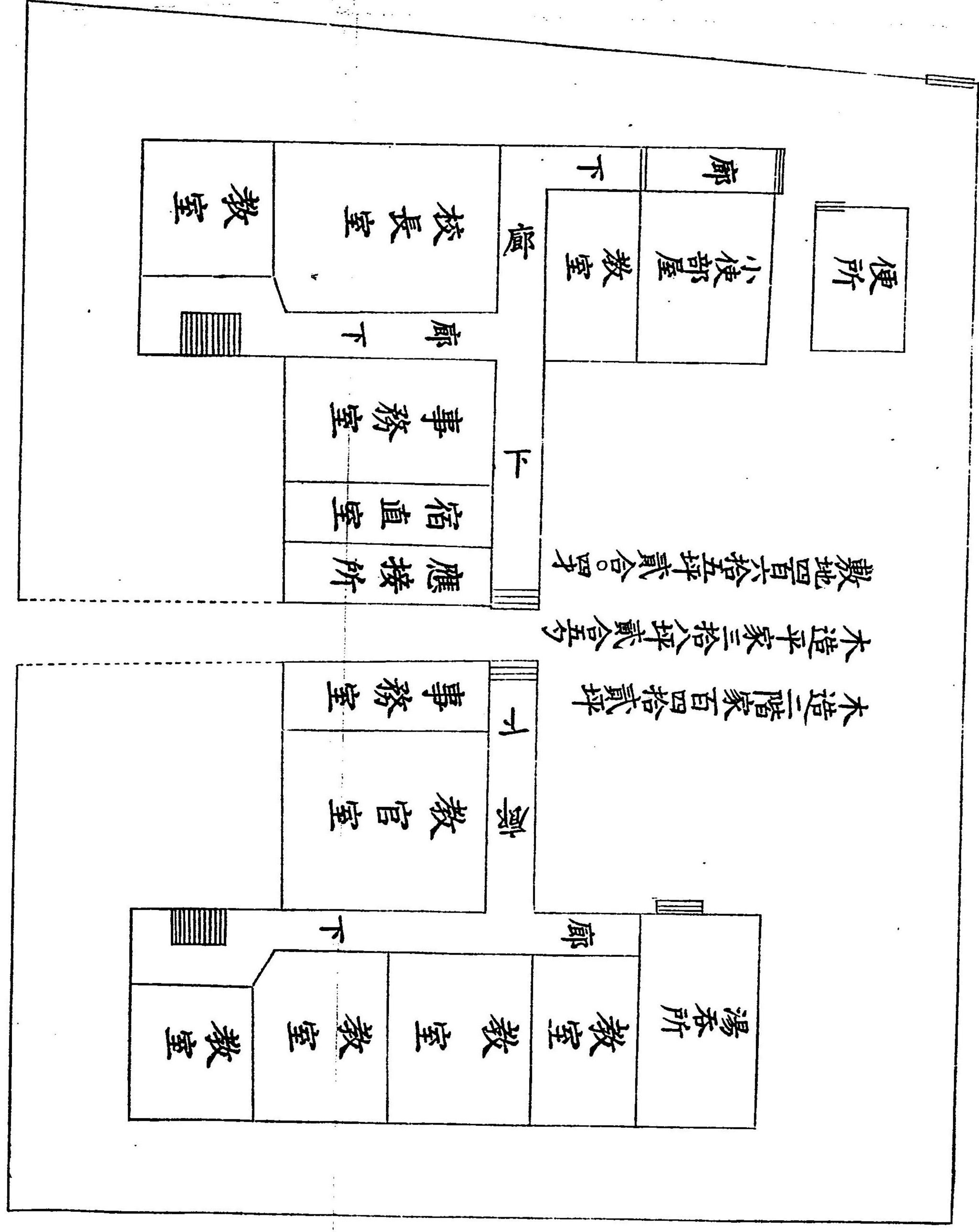
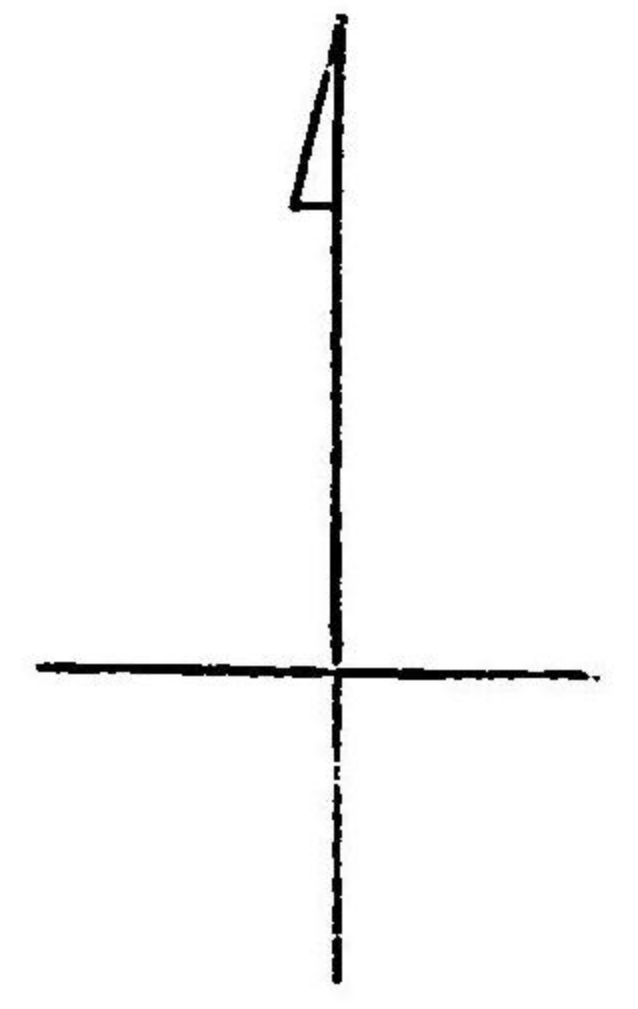
本校別科卒業生 英佛獨露西清科

四七

本科学府縣及族別表

(三十二年九月末日調)

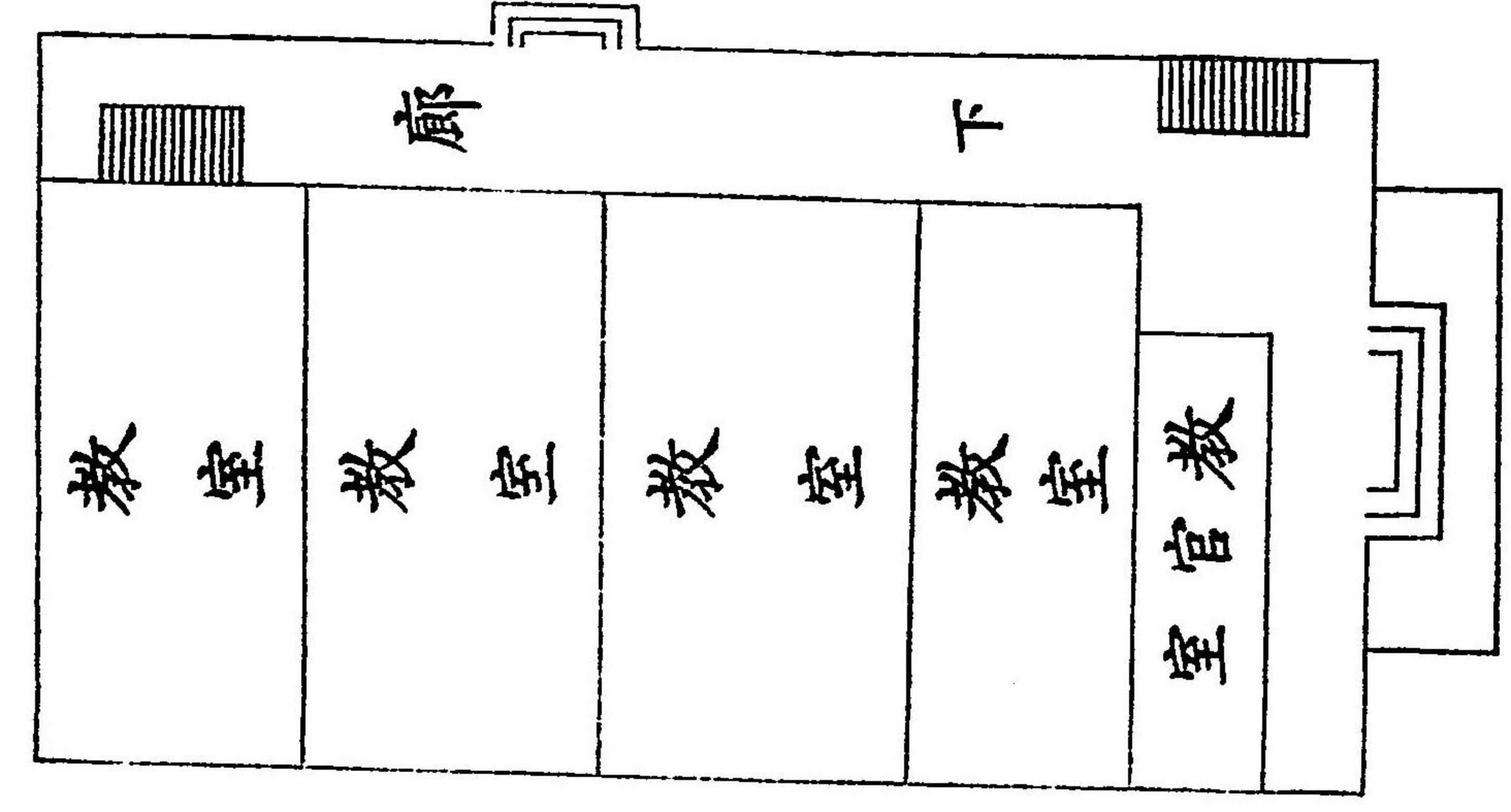
府縣	英語科		佛語科		獨語科		露語科		伊語科		西語科		清語科		韓語科	
	三年級	二年級	三年級	二年級	三年級	二年級	三年級	二年級	三年級	二年級	三年級	二年級	三年級	二年級	三年級	二年級
北海道																
東京	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
京都																
大坂																
神奈川																
兵庫																
長崎																
新潟																
埼玉																
群馬																
千葉																
茨城																
栃木																
奈良																
三重																
愛知																
静岡																
山梨																
滋賀																
岐阜																
長野																
宮城																
福島																
石川																
富山																
鳥取																
島根																
岡山																
廣島																
山口																
和歌山																
徳島																
香川																
愛媛																
高知																
福岡																
大分																
佐賀																
熊本																
宮崎																
鹿児島																
沖繩																
韓國人																
合計	四	七	二	九	一	六	一	七	三	五	一	五	一	六	一	六



神田一ツ橋通り

高等商業学校表門

高等商業学校構内
分教場



木造二階家九拾坪

便所

生徒控所

CALENDAR

OF THE

TŌKYŌ SCHOOL OF FOREIGN LANGUAGES

1899-1900.

TABLE OF CONTENTS.

—o—

	PAGES.
I. Calendar	1
II. Historical Summary	2
III. Imperial Ordinances	3
IV. Officers and Faculty	6
V. General Rules and Regulations	9
1. General Rules	9
2. Courses of Study	9
3. Academic Year, Terms, Holidays, and Vacations	10
4. Admission, Attendance, and Dismissal	11
5. Examination, Promotion, and Graduation	15
6. Tuition Fees	16
7. Additional Courses	17
8. Honour Students	17
9. Loan Scholarship	17
VI. Regulations relating to the Special Courses	19
VII. Comparative Table of the Number of Students	21
VIII. Comparative Table of the Ages of Students	21
IX. Table showing the Occupations of the Students of the Special Course	22

I.

CALENDAR FOR 1899-1900.

—o—

1899.

- September 11 The First Term begins.
September 23 Holiday (Shūki Kōrei Sai).
October 17 Holiday (Kanname Sai).
November 3 Holiday (His Majesty's Birthday).
November 23 Holiday (Niiname Sai).
December 17 The First Term Examination begins.
December 24 The First Term ends.
December 25 Winter Vacation begins.

1900.

- January 7 Winter Vacation ends.
January 8 The Second Term begins.
January 30 Holiday (Kōmei Tennō Sai).
February 11 Holiday (Kigen Setsu).
March 20 Holiday (Shunki Kōrei Sai).
March 25 The Second Term Examination begins.
April 3 Holiday (Jimmu Tennō Sai).
April 10 The Second Term ends.
April 11 The Third Term begins.
June 24 The Annual Examination begins.
July 10 The Third Term ends.
July 11 Summer Vacation begins.
September 10 Summer Vacation ends.

II.

HISTORICAL SUMMARY.

In consequence of the Bill passed by the Imperial Diet in 1896, this institution was established in April 1897, in connection with the Higher Commercial School.

In September of the same year courses in seven foreign languages: English, French, German, Russian, Spanish, Chinese, and Korean, were opened; with separate faculties consisting of both Japanese and foreign professors, under the general superintendence of Baron N. Kanda. Two courses were opened in each section; namely, a Regular course of three years and a Special course of two years; the former admitting such candidates as had either graduated from middle schools, or passed a satisfactory examination; the latter, those who were already engaged in various spheres of active life, and for whom classes were held late in the afternoon.

By the Imperial Ordinance, No. 116, issued April 4, 1899, the institution was set on an independent footing under the name of Tokyo School of Foreign Languages, and brought under the direct control of the Department of Education, Baron Kanda being appointed Director.

In September 1899, a course in Italian was added to the curriculum of the school, making eight courses in all.

III.

Imperial Ordinance No. 86 (August 24th, 1893), relating to the Organization of the schools under the direct control of the Department of Education. (Modified by the Ordinance No. 117, dated April 4, 1899.)

(ARTICLES CONCERNING THE TOKYO SCHOOL OF FOREIGN LANGUAGES).

ART. I.

The schools under the direct control of the Department of Education are the Higher Normal School, the Female Higher Normal School, the Higher Commercial School, the First High School, the Second High School, the Third High School, the Fourth High School, the Fifth High School, the Tokyo Technical School, the Tokyo School of Foreign Languages, the Tokyo Fine Art School, the Tokyo School of Music, the Osaka Technical School, and the Tokyo Blind and Dumb School.

ART. VI.

The officers of the school under the direct control of the Department of Education shall be as follows: Director, Professors, Assistant Professors, Clerks.

ART. VII.

The Director shall be of either Chokunin or Sōnin rank,

and shall superintend the affairs of the school, under the direction of the Minister of Education.

ART. VIII.

The Professors shall be of either Chokunin or Sōnin rank, and shall have in charge the instruction of the students.

The Assistant Professors shall be of Hannin rank, and shall assist in the duties of the Professor.

ART. IX.

The Clerks shall be of Hannin rank, and shall carry out the orders of the Director with reference to school administration and finance.

ART. XVII.

In case a vacancy occurs in the chair of any professorship, a person already holding a post elsewhere may be appointed to occupy it as an additional one or, by special permission of the Minister of Education, a lecturer may be appointed to fill it temporarily.

ART. XIX.

The Minister of Education may appoint Boards of Council for the schools whenever he sees fit to do so.

Imperial Ordinance No. 87 (August 24th, 1893), relating to the number of officers in the schools under the direct control of the Department of Education. (Modified by the Ordinance No. 118, dated April 4th, 1899.)

(ARTICLE CONCERNING THE SCHOOL.)

The Tokyo School of Foreign Languages.

Director	1.
Professors	15.
Assistant Professors	8.
Clerks	2.

Imperial Ordinance No. 96 (September 9th, 1893), relating to the appointment of a foreigner to a professorship.

When, in the Imperial University and in the schools under the direct control of the Department of Education, it shall be necessary, for instruction in some branch of study, to appoint a foreigner to take the duty of the Professor, the President of the University and Directors of such schools may appoint him to do so, with the permission of the Minister of Education.

IV.
OFFICERS AND FACULTY.

DIRECTOR.

Baron Naibu Kanda.

PROFESSORS.*

Baron Naibu Kanda, M. A. (Amherst College).....English.
 Eiji Asada, Ph. D. (University of Chicago)English.
 Gisei Yoshida.....French.
 Kotaro YamaguchiGerman.
 Tsuneichiro FurukawaRussian.
 Hideo YamazakiKorean.
 Shigetaro MizunoGerman.
 Kōichi Yamaguchi.....International Law and German.
 Tatsunosuke HasegawaRussian.
 Otohei Suzuki.....Russian.
 Tomoyoshi MuraiEnglish.

FOREIGN PROFESSORS.*

Wladimir Fomenko, Cand. Phil. (Imp. Univ. of
 Odessa)Russian.
 Chin Kuo Pu, *Chien Sheng*Chinese.

Ronald B. McKerrow, B. A. (Cantab.)English.
 Paul Jacoulet, Bachelier ès Lettres (Académie de
 Paris)French.
 Francisco Grisolia, Bachiller en Filosofia y Letras
 y Catedratico (España).....Spanish.
 Yu Pil-kun.....Korean.
 Alphonso Gasco.....Italian.
 Emil Mattiesen, Doctor Philosophiae (Leipsig Uni-
 versity)German.
 Yun Chī-ōKorean.
 Chō Kyong-hyopKorean.
 Ts'ao Tsu-yüanChinese.

LECTURERS.*

Daihachi MiyajimaChinese.
 Saiichi Shindo, Docteur en droit.....
 International Law and French.
 Liu Yü-tienChinese.
 Toyosaburo UshidaEnglish.
 Isao MatsudaEnglish.
 Tetsuzo Shōji, Professor in the Military College ..French.
 Tameyuki Amano, Bungakuhakushi (Imp. Univ.)..
 Political Economy.
 Heizō Ito.....Italian.
 Katayasu Shinoda.....Spanish.
 Kanjiro Higuchi, Instructor in the Higher Normal
 SchoolPedagogics.

Kenkichiro Hidaka Chinese.
 Hideo Yoshida Italian.
 Kyūzō Tsuruda French.

ASSISTANT PROFESSORS.*

Gōzaburo Hiyama Spanish.
 Fukukitsu Hasegawa Gymnastics.
 Toranosuke Suzuki Gymnastics.
 Kyūkichī Murakami Gymnastics

SANITARY ADVISER.

Morihiko Nakayama, Igakushi (Imp. Univ.)

TREASURERS.

Ginjūro Ozawa, Clerk.
 Shinsaku Iwata, Clerk.

LIBRARIAN.

Masatate Nishimura, Clerk.

REGISTRARS.

Minaka Kaneko, Clerk.
 Toyosaburo Ushida.

* Order of Appointment.

V.

GENERAL RULES AND REGULATIONS.

I. GENERAL RULES.

1. This institution provides courses of instruction in the modern languages of European and Oriental countries.

For the present, there are provided the courses of the following languages: English, French, German, Russian, Spanish, Italian, Chinese, and Korean.

2. The course of study extends over three years.

3. Special courses are opened, for which regulations are given under a separate head.

II. COURSES OF STUDY.

4. The courses of study are as follows:—

COURSES OF ENGLISH, FRENCH, GERMAN, RUSSIAN,
 SPANISH, AND ITALIAN.

First, Second, and Third Years.

Reading	}	24 hours per week.
Dictation		
Composition		
Conversation		
Translation		
Grammar	}	3 hours per week.
Gymnastics		

COURSES OF CHINESE AND KOREAN.

First, Second, and Third Years.

Reading.....	} 24 hours per week.
Conversation.....	
Composition.....	
Translation.....	
Chinese Classics ..	3 hours per week.
Gymnastics	3 hours per week.

Students of the Second and the Third Year in French, German, Russian, Spanish, Italian, Chinese, and Korean courses may take English as an optional study.

5. Students may attend, by permission of the Director, any of the Special Courses other than the course they are pursuing.

III. ACADEMIC YEAR, TERMS, HOLIDAYS, AND VACATIONS.

6. The academic year commences on the 11th of September, and closes on the 10th of September of the following year.

7. The academic year is divided into three terms. The first term commences on the 11th of September, and closes on the 24th of December; the second term commences on the 8th of January, and closes on the 10th of April; and the third term commences on the 11th of April, and closes on the 10th of July.

8. The holidays and vacations are as follows:—

- Sundays.
- Shūki Korei Sai.
- Kamame Sai.
- His Majesty's Birthday.
- Niiname Sai.
- Kōmei Tennō Sai.
- Kigen Setsu.
- Shunki Kōrei Sai.
- Jimmu Tennō Sai.
- Summer vacation (July 11th—Sept. 10th).
- Winter vacation (Dec. 25th—Jan. 7th).
- One week after each term examination.

IV. ADMISSION, ATTENDANCE, AND DISMISSAL.

9. New students are admitted at the commencement of each academic year, but in exceptional cases they may be admitted at other times.

10. a. Those who hold diplomas of graduation from institutions of, or above, the standing of Middle Schools, have the privilege of being admitted, without examination, into the first year. In case the number of candidates exceeds the maximum limit for admission, entrance examination is held.

b. When the number of such candidates falls short of the required number for admission, the deficiency is made up of the other candidates after examination.

11. Those who desire to enter a higher class must first prove themselves qualified for entering the lowest class, and be admitted after examination in all the subjects taught in the lower classes.

12. The entrance examination is based on the standard of graduation at a Middle School, and is held on all the subjects taught there. For graduates of Middle Schools up to three of the above subjects may be reduced.

13. All candidates for admission must attain the mark of at least 50 per cent in each subject, and of at least 65 per cent in the total average.

14. All candidates for admission must present a written application together with an account of their previous studies drawn up in accordance with the required forms, No. 1 and No. 2.

15. *a.* Those who take the entrance examination are required to pay an examination fee of 3 yen.

b. Those who are admitted without examination are required to pay an entrance fee of 1.50 yen.

c. Fees once paid in are not refunded under any circumstance.

16. A student having left the school on application and applying for re-admission may be permitted to enter a grade not higher than the one in which he was at the time he left the school. In this case he is required to pay the entrance fee mentioned in Art. 15, *b.*

N.B.—This article does not apply to any one wishing to enter any other than the original course.

17. When a student is admitted a written declaration, signed by two sureties in accordance with the required form No. 3, must be presented.

18. Sureties must be male persons who have attained their majority, and who have domiciles within the jurisdiction of the city of Tokyo, or such other persons as are approved by the school.

In case either of the sureties dies or loses any of the above-mentioned conditions, he must at once be replaced by another, and a new written declaration in the form No. 3 must be presented.

In case of the absence of either of the sureties from Tokyo, he must provide a substitute to act for him during his absence; and when he changes his residence or alters his seal, he must give due notice of the fact.

19. Students who, by reason of idleness, disorderly conduct or illness, prove themselves unfit to continue their studies are dismissed.

20. Students who have failed to attain sufficient annual marks for two consecutive years have their names removed from the school register.

21. Students who enter One Year Voluntary Service in the Army during their course, and who desire to return to the school after its completion, are admitted without examination into their original grade.

22. No student is allowed to change from one course into another.

23. Any student wishing to leave the school must send in a written application signed by himself and countersigned by his sureties.

Form No. 1. Application for Admission.

..... Esq.,

Director of the Tokyo School of Foreign Languages.

Dear Sir :—

I beg leave hereby to apply for admission to the Course, and enclose herewith the *curriculum vitae* along with a copy of my diplomas.

Respectfully Yours,

..... (Seal.)

Born

son, or younger brother, of....

Date:..... (unless the applicant be the head of a house).

Registered

Present address

Form No. 2. Curriculum vitae.

(1.) Studies pursued: names of the schools attended (government, public, or private); the course of studies pursued, and the number of years spent in the schools; or with whom studied, with what text-books, etc. Copies of diplomas, if any, should be presented.

(2.) Rewards and punishments received. I hereby declare upon my honour that the above is a true statement.

(Signed).....

Date :

Form No. 3. Sureties' Declaration.

..... Esq.,

Director of the Tokyo School of Foreign Languages.

Dear Sir :—

We the undersigned beg leave hereby to declare that we hold ourselves responsible for.....in all matters involved in his connection with the school.

Date :....

Attested by..... (Seal).

Chief of the.... District or Address, Occupation, etc. County.

Attested..... (Seal).

Chief of..... District or Address, Occupation, etc. County.

V. EXAMINATION, PROMOTION, AND GRADUATION.

24. Examinations are of two kinds: term and annual.

The term examinations are held at the end of the first and the second term; the annual, at the end of the third term, on the subjects studied during the year.

25. The maximum mark given for each subject is 100.

26. The term mark of any subject is determined by the

daily mark and the term examination mark. In some cases, the daily mark alone may be taken for the term mark.

27. The average term mark is determined by dividing by the number of subjects the sum of term marks; the average annual examination mark, by dividing by the number of subjects the sum of annual examination marks.

28. The annual mark is determined by dividing by 3 the sum of the average term marks and the average annual examination mark.

29. A student who is absent from the annual examination may, upon due consideration of his ordinary standing and the cause of his absence, be allowed a special examination.

30. The attainment of 50 in the average term mark and of 60 in the average annual examination mark entitles a student in the first and the second year to promotion; and in the third year, to receive diplomas of graduation.

VI. TUITION FEES.

31. The annual tuition fee is 20 yen, payable in advance by halves on the days appointed in the months of September and February.

32. Should a student not pay his fee on the appointed days his sureties are notified thereof, and, if it is not paid within two weeks after such notice has been given, his name is removed from the school register.

33. No tuition fee once paid in is returned under any circumstance.

34. The absence of any student from school for any period from whatever cause does not exempt him from payment of his tuition fees as long as his name remains on the school register.

VII. ADDITIONAL COURSES.

35. Additional courses in Political Economy, International Law, and Pedagogics are established for the students of the Third Year, who may elect any one or two of these subjects.

VIII. HONOR STUDENTS.

36. A student of above the Second Year who is distinguished for his scholastic attainments and good morals may be made an honor student.

37. The honor student enjoys the privilege of exemption from tuition fees.

38. The honor student is appointed by the Director at the end of each academic year, according to the result of the annual examination.

39. The honor student who by reason of sickness, misconduct, or idleness may be considered unfit to continue as such, will be deprived of this honor.

IX. LOAN SCHOLARSHIPS.

40. A loan scholarship, not exceeding in amount the

sum of one hundred yen per annum, may be allotted by the Director to a student who has proved himself to be of good ability and character, but is unable to meet his school expenses.

41. The scholarship is given out of the accumulated fund of donations and of money returned, either by persons to whom such assistance has been afforded or by their sureties.

42. A student desirous of receiving the above loan must apply to the Director in writing, signed by two persons of respectability residing in Tokyo, who will stand as his sureties.

43. A student receiving a loan scholarship must present to the Director a written declaration after a prescribed form, certifying his intention to fulfill his obligations.

44. A student who receives the above loan must repay the debt in monthly installments, the number of which shall not exceed twice the number of months during which he has had the loan, the first installment to be paid one month after graduation.

In case of the death of such student or graduate the money need not be repaid.

45. Should any student receiving the above loan be deemed unfit to continue his studies on account of idleness or misconduct he will be deprived of the scholarship.

Student to whom further aid has been refused, as well as those who leave the school on their own account, must

return within thirty days the whole amount advanced, together with interest at the rate of 6 per cent. per annum.

46. Should a student receiving the above loan be deemed unfit to continue so any longer on account of sickness, the amount already advanced must be returned in the manner indicated in Art. 44.

47. All loans, if not repaid by the recipient, must be repaid by the sureties.

48. Should either of the sureties die or leave the city, or lose his property, a substitute must be promptly appointed and a new declaration signed by the sureties.

The Loan scholarship existing at present is from the funds donated by Societa Italo-Giapponese for the promotion of the study of Italian.

VI.

**REGULATIONS RELATING TO THE
SPECIAL COURSES.**

1. Special courses are established for those who may wish to study for a shorter period of time the languages taught in the school.

2. Special courses are opened for those who have regular callings or such other persons as are approved of by the Director.

3. The course of study extends over two years.

4. Candidates are admitted at the beginning of each term, those applying at the beginning of the second and the third term being admitted after examination.

5. Candidates applying for the First Year are admitted without examination, unless the number of applicants exceeds the maximum number for admission.

6. Special students must pay an admission fee of one yen.

Those admitted under Art. 5 of the General Rules and Regulations are exempted from paying this fee.

7. The annual tuition fee is 10 yen, payable in advance, in stated sums, at the beginning of each term.

Those admitted under Art. 5 of the General Rules and Regulations must pay one half the above sum.

8. With reference to Examinations the rules given under the General Rules and Regulations are applied to the Special Courses with modification.

9. Students who have completed their two years' course receive certificates of their study.

10. The number of hours of instruction does not exceed ten hours per week.

11. Special students are taught in special classes, but they may in some cases receive instruction with regular students.

12. With reference to Admission and Dismissal the

rules given under the General Rules and Regulations are applied to the Special Courses.

VII.

TABLE SHOWING THE NUMBER OF STUDENTS.

Languages.	Regular Course.				Special Course.			
	Third Year.	Second Year.	First Year.	Total.	Second Year.	First Year.	Total.	Total.
English.....	11	20	33	64	19	27	46	110
French.....	8	16	27	51	19	39	58	109
German.....	9	8	21	38	30	51	81	119
Russian.....	7	12	23	42	9	15	24	66
Spanish.....	3	5	13	21	3	4	7	15
Italian.....	—	—	11	11	—	4	4	28
Chinese.....	9	19	12	40	10	22	32	72
Korean.....	5	5	16	26	—	—	—	26
Total.....	52	85	156	293	90	162	252	545

VIII.

TABLE SHOWING THE AGES OF STUDENTS.

		Maximum.	Minimum.	Average.
		Yrs. Mos.	Yrs. Mos.	Yrs. Mos.
Regular Course.	Third Year ..	30. 08	19. 07	23. 07
	Second Year.	30. 05	17. 11	22. 02
	First Year ..	35. 03	16. 05	21. 06
Special Course.	Second Year.	44. 02	19. 05	26. 02
	First Year ..	41. 08	16. 07	27. 00

IX.

TABLE SHOWING THE OCCUPATIONS OF THE STUDENTS
OF THE SPECIAL COURSES.

Government Officials	48
Middle School Teachers	26
Normal School Teachers.....	11
Army and Navy Officers	15
Students of Mombusho Schools ...	28
Students of Various Special Schools	19
Primary School Teachers	21
Members of Banking and other Business Firms	12
Merchants	12
Physicians	25
Journalists	3
Shinto Priest	1
Students of the Principal Course.....	5
Miscellaneous.....	26
Total	252

ADDENDUM

TO

HISTORICAL SUMMARY.

In September 1899, lectures on International Law, Political Economy, and Pedagogics were added to the curriculum of the Third Year as optional studies.

293.5
/

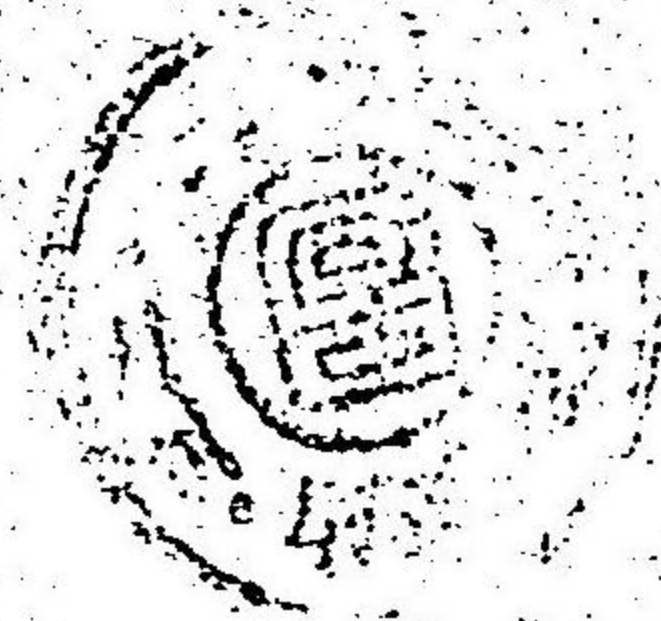
東京外國語學校一覽

從明治三十三年
至明治三十四年



- 總則
- 學級學科課程
- 學年學期及休業規程
- 入學在學及退學規程
- 試業進級及卒業規程
- 授業料規程
- 副科規程

- 特待生規程
- 貸費規程
- 別科規程
- 寄附金
- 一生徒心得
- 一 本校生徒現員
- 一 本校生徒科別及年級表
- 一 本校生徒年齡表
- 一 本校生徒府縣及族別表
- 一 本校卒業生及其就職ノ場所
- 一 明治三十三年七月卒業式ニ於ケル演說祝詞等
- 一 別科生徒職業區分表
- 一 本校略圖



學 年

曆 (自明治三十三年九月十一日至明治三十四年九月十一日)

全	三十三	年九月十一日
全		九月廿三日
全		十月十七日
全		十一月三日
全		十一月廿三日
全		十二月十七日
全		十二月廿四日
全		十二月廿五日
三十四	年一月七日	
全		一月八日
全		一月三十日
全		二月十一日
全		三月廿一日

第一學期始

休業(秋季皇靈祭)

同(神嘗祭)

同(天長節)

同(新嘗祭)

第一學期試業始

第一學期終

冬期休業始

冬期休業終

第二學期始

休業(孝明天皇祭)

同(紀元節)

同(春季皇靈祭)

全	三月廿五日	第二學期試業始
全	四月三日	休業(神武天皇祭)
全	四月十日	第二學期終
全	四月十一日	第三學期始
全	六月廿四日	第三學期試業始
全	七月十日	第三學期終
全	七月十一日	夏期休業始
全	九月十日	夏期休業終
全	全	學年終
每日曜日	全	休業

東京外國語學校一覽

沿革概略

本校ハ明治三十年四月高等商業學校ニ附屬トシテ設ケラレ全月文部省直轄諸學校官制改正ニ依リ神田乃武主事ヲ命セラル全月文部省直轄諸學校職員定員改正ノ際本校ノ職員ヲ定メラル七月規則ヲ制定シ英、佛、獨、露、西、清、韓ノ七科ヲ設ケ生徒ヲ正科特別科ノ二種ニ區別シ正科ヲ三ヶ年特別科ヲ三ヶ年以内ノ修業年限トナシ九月ヨリ實施セリ全三十二年四月四日勅令第百十六號ヲ以テ本校ヲ東京外國語學校ト改稱シ全日勅令第百十八號ヲ以テ本校職員定員ヲ定メラル全月五日神田乃武校長心得ヲ命セラル全月廿一日神田乃武校長ヲ命セラル此月校舍ヲ錦町三丁目十四番地ニ移シ規則ヲ改正シ更ニ伊語ノ一科ヲ加ヘテ八科トナシ特別科ヲ別科ト改メ其修業年限ヲ二ヶ年トナシ正科ヲ本科ト改メ此月ヨリ實施セリ全三十三年三月職員定員ヲ改正セラル全月七日校長神田乃武本官ヲ免セラレ全日文部省専門學務局長文學博士上田萬年校長事務取扱ヲ命セラル全月六月入學及貸費ニ關スル規則ヲ改正シ全月九月ヨリ之ヲ實施セリ

官制

勅令第八拾六號明治二十六年八月廿四日公布明治三十年勅令第百八號全三十二年勅令第十七號全三十三年勅令第八十四號ヲ以テ改正

文部省直轄諸學校官制(本校ニ關スル分抜抄)

第一條 文部省直轄諸學校ハ高等師範學校、女子高等師範學校、札幌農學校、高等商業學校、第一高等學校、第二高等學校、第三高等學校、第四高等學校、第五高等學校、第六高等學校、東京工業學校、東京外國語學校、東京美術學校、東京音樂學校、大坂工業學校及東京盲啞學校トス

第六條 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

教授

助教授

書記

第七條 校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ受ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ

監督ス

第八條 教授ハ勅任又ハ奏任トス生徒ノ教授ヲ掌ル

助教授ハ判任トス教授ノ職務ヲ助ク

第九條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第十七條 專任教官中其學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

第十九條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其委員ハ文部大臣之ヲ命ス

勅令第八十七號(明治二十六年八月二十四日明治三十二年勅令第百十八號全三十三年勅令第八十六號ヲ以テ改正)

文部省直轄諸學校職員定員抜抄

東京外國語學校

校長 一人

教授 十七人
助教 十一人
書記 四人

文部省直轄諸學校高等官官等俸給令

勅令第百十九號(明治三十二年四月四日公布)

第一條 文部省直轄諸學校長ハ高等官二等以下六等以上トス

東京外國語學校長東京音樂學校長及東京盲啞學校長ハ高等官三等以下六等以上トス

第二條 文部省直轄諸學校教官ハ高等官三等以下トス

文部省直轄諸學校教官(東京外國語學校、東京音樂學校及東京盲啞學校教官ヲ除ク)ニシテ五箇年以上高等官三等ニ在リテ特ニ功勞アル者ハ各校一人ヲ限り高等官二等ニ陞叙セラル、コトアルヘシ

第三條 文部省直轄諸學校ノ專任舍監ハ高等官四等以下トシ兼任舍監ハ本官ノ官等ニ從フ

第五條 文部省直轄諸學校教官ハ其授業ノ時間及學科ノ難易輕重ニ依リ最低額

以下ノ年俸ヲ給スルコトアルヘシ

第六條 文部省直轄諸學校教官ニシテ一校若クハ數校ノ教官ヲ兼任スル者ニハ本官并兼官ニ於ケル授業ノ時間及學科ノ難易輕重ニ應シ其本官ノ俸給ヲ分轄シテ各校ヨリ支給スルコトアルヘシ

第七條 文部省直轄諸學校官制第十七條ニ依リ某學科ノ授業ヲ擔任スル囑託講

師ニハ教官俸給額ノ内ヨリ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

勅令第九十六號 明治二十六年九月九日

帝國大學及文部省直轄諸學校ニ於テ學科教授ノ必要アル片ハ帝國大學總長及直轄諸學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ雇外國人ヲシテ教官ノ職務ニ當ラシムルヲ得

文部省直轄諸學校長舍監特別任用令

勅令第百十三號(明治三十年四月二十二日公布)

文部省直轄諸學校長ハ一箇年以上奏任教官ノ職ニ在リタル者ニ限り全舍監ハ左

ニ掲クル者ニ限り試験ヲ要セス文官高等試験委員ノ詮衡ヲ經テ任用スルヲ得

一 一箇年以上奏任教官又ハ奏任官待遇ノ教職ニ在リタル者

一 三箇年以上判任教官又ハ判任官待遇ノ教職ニ在リタル者

職員

校長事務取扱

文部省専門學務局長兼文科大學教授文學博士

上田 萬年

教授

英語

ドクトル、オフ、フ#ロソフ#イ(シカゴ大學)

淺田 榮次

東京府士族

獨逸國留學中

山口 小太郎

東京府士族

英語

本田 増次郎

岡山縣平民

西班牙國留學中

文學士 村上直次郎

大坂府平民

韓國留學中

文學士 金澤庄三郎

大分縣士族

韓語

山崎 英夫

長崎縣士族

職員

獨語 獨語 露語 國際法 獨語 伊語 清語 佛語 西語 韓語 伊語 全語 英語

外國教師

就職順

監生 金 國 璞

水野 繁太郎

岡山縣士族

長谷川 辰之助

東京府士族

福岡 秀猪

東京府華族

武内 大造

埼玉縣平民

伊東 平藏

東京府士族

ポール、ジヤクレイ

佛國人

フランシスコ、ケリソリア

西班牙人

柳 苾根

韓國人

アルフォンソ、ガスコ

伊太利人

尹 致 時

韓國人

趙 慶 協

全

アー、ビー、スプリーナ

米國人

バシユリエーアカデミー、パリ

バチラー、エン、フ#ロソフ#イ、レトラス

イ、カチドラチコ

パチエラルチア、ロース(カンバランド大學)マストル

オプロース(エール大學)ドクトル、アンシヤンスボリ

ナツク、エーアドミストラチー、グ(アルクセル大學)

文學士

漢 英 教 西 佛 伊 西 佛 清 獨 清 佛 露
 文 語 育 語 語 語 語 語 語 語 語 語 語

オフィシエダカデミ、パシエリエツシヤノース

ローウエル、スマイス
 エマスエル、トロンコワ

露 國 人

于 沖 漢
 エミール、ハリヤ
 獨 逸 人

講 師 就職順

宮 島 大 八
 山形縣士族

神 藤 才 一
 神奈川縣平民

篠 田 賢 易
 東京府士族

農 學 士
 吉 田 秀 男
 東京府平民

吉 田 義 靜
 熊本縣士族

檜 山 剛 三 郎
 東京府平民

高 等 師 範 學 校 教 授
 小 泉 又 一
 兵庫縣士族

文 學 士
 小 松 原 隆 二
 岡山縣士族

長 井 行
 秋田縣平民

獨 漢 露 全 經 衛 佛 清 韓 體 全
 語 文 語 濟 生 語 語 語 操

助 教 授

文 學 士 上 田 整 次
 北海道廳平民

三 矢 重 松
 山形縣平民

陸 軍 教 授 小 島 泰 次 郎
 東京府平民

藤 堂 紫 朗
 東京府平民

法 學 士 神 戶 正 雄
 愛知縣士族

陸 軍 一 等 軍 醫 藤 村 富 三 郎
 京都府平民

瀧 村 立 太 郎
 東京府士族

岡 本 正 文
 愛媛縣士族

本 田 存
 東京府士族

土 田 半 六
 東京府平民

高 等 商 業 學 校 助 教 授 長 谷 川 福 橘
 東京府平民

村 上 久 吉
 廣島縣平民

書 記

教務課主任
 會計課主任
 庶務課主任
 會計課
 會計課
 庶務課
 會計課
 會計課
 庶務課
 教務課

雇員

渡邊 仙藏	東京府平民
小澤 銀十郎	長野縣士族
成田 文太夫	宮城縣士族
秋山 運四郎	宮城縣平民
岩田 信作	新潟縣平民
金子 水哉	福井縣士族
西村 正立	靜岡縣士族
高品 磯五郎	千葉縣平民
生野 友尙	東京府士族
渡邊 清	東京府士族

東京外國語學校規則

第一章 總則

第一條 本校ハ歐洲及東洋近世語ヲ教授スル所トス

現今ニ於テハ英語、佛語、獨語、露語、伊語、西語、清語、韓語ヲ教授ス

第二條 本校生徒ノ修學年限ハ三箇年トス

第三條 本校ニ別科ヲ置ク其規程ハ別ニ定ル所ニ依ル

第二章 學科課程

第四條 本校學科及課程ヲ定ムルコト左ノ如シ

各語學科課程

第一年	第二年	第三年
語學	每週二十四時間	
體操	同	三時間

但シ清語學科、韓語學科ニハ此外ニ漢文每週三時間ヲ課ス

佛、獨、露、伊、西、清、韓語學科二年級以上ノ生徒ハ其志望ニ依リ英語ヲ兼修スルコトヲ得

第五條 本校生徒ハ其所修學科以外ノ別科ヲ兼修スルコトヲ得但シ此場合ニハ校長ノ認可ヲ經ルヲ要ス

第三章 學年、學期及休業

第六條 學年ハ九月十一日ニ始リ翌年九月十日ニ終ル

第七條 學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ九月十一日ヨリ十二月二十四日ニ至リ第二學期ハ翌年一月八日ヨリ四月十日ニ至リ第三學期ハ四月十一日ヨリ七月十日ニ至ル

第八條 年中休業左ノ如シ

- 一 毎日晒
- 一 秋季皇靈祭
- 一 神嘗祭
- 一 天長節
- 一 新嘗祭
- 一 孝明天皇祭
- 一 紀元節
- 一 春季皇靈祭

一 神武天皇祭

一 夏季休業 自七月十一日至九月十日

一 冬季休業 自十二月二十五日至翌年一月七日

一 各學期試業後一週間

第四章 入學、在學及退學

第九條 入學期ハ每學年ノ始トス但シ時宜ニ依リ臨時入學ヲ許スコトアルベシ
第十條 本校生徒ハ中學校程度以上ノ學校ノ卒業生ニシテ品行方正身體健全ナル者ノ中ヨリ試験ノ上第一年級ニ入學ヲ許可スルモノトス

第十一條 前條ニ掲グルモノ、外學力優等品行方正身體健全ナル者ハ試験ノ上入學セシムルコトアルベシ

第十二條 第二年級以上ニ入學セントスル者ハ先ヅ第一年級ニ入ルニ必要ナル資格ヲ檢定シ更ニ其下級ノ各科目試験ノ上相當級ニ編入スルコトアルベシ

第十三條 入學試験ハ中學校卒業ノ程度ニ依リ中學校所定ノ全學科ニ就キ之ヲ行フ但シ中學校卒業生ノ入學試験ニハ外國語ヲ除クノ外三科目以内ヲ省略ス

ルコトアルベシ

第十四條 入學試験ニ於テハ各科目評點數一百ヲ以テ最高點トシ各科目評點數五十以上平均評點數六十五以上ヲ得タル者ヲ合格トス

第十五條 入學志願者ハ第一號及第二號書式ニ倣ヒ入學願書并ニ履歷書ヲ差出スヘシ

第十六條 入學試験ヲ受クル者ハ試験料トシテ金參圓ヲ納付スヘシ
試験ニ依ラズシテ入學ヲ許サレタル者ハ入學料トシテ金壹圓五拾錢ヲ納付スヘシ

本條ニ依リ一旦收納シタル金員ハ入學願ヲ取消スト雖モ之ヲ返付セズ

第十七條 願ニ依リ一旦退學シタル者再入學ヲ請フトキハ入學期ニ於テ原級以下ノ級ニ編入スルコトアルヘシ此場合ニハ第十五條第二項ノ入學料ヲ徴收ス但原科以外ノ科ニ入學ヲ請フトキハ本條ヲ適用セズ

第十八條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ正副保證人ヨリ第三號書式ニ準シ在學證書ヲ差出スヘシ

第十九條 正副保證人ハ丁年以上ノ男子ニシテ東京府内ニ住居シ一家計ヲ立ツ

ル者又ハ本校ニ於テ適當ト認ムル者ニ限ル保證人死去若シクハ前項ノ資格ヲ失ヒタルトキハ速ニ他人ヲ以テ之ニ代ヘ更ニ第三號書式ニ準シ證書ヲ差出スヘシ又保證人旅行ヲサントスルトキハ代理人ヲ定メ其旨ヲ届出ツヘク又府内ニ轉居シ若シクハ改印等ヲナシタルトキハ亦届出ツヘシ

第二十條 生徒校規ニ悖戻シ若クハ品行不良學業懈怠又ハ疾病等ノ故ヲ以テ成業ノ見込ナシト認定シタル者ハ退學ヲ命ス

第二十一條 學年成績ニ不合格ナルコト引續キ再度ニ及フトキハ除名ス

第二十二條 在學中一年志願兵トナリタル者滿期後直ニ復校セントスルトキハ試験ヲ要セズシテ原級ニ編入ス

第二十三條 或語學科ヨリ他ノ語學科ヘ轉スルコトヲ許サス

第二十四條 退學セント欲スル者ハ保證人連署ノ退學願書ヲ差出スヘシ

第一號書式 (用紙美濃紙)

入學願書

私儀何語學科(別科)第何年級へ入學志願ニ付御許可被成下度別紙履歷書并ニ卒業證書寫相添へ此段相願候也

本籍族職業

(戸主ニアラサル者ハ)
何某男又ハ弟等

氏 名 印

年月日

何年何月何日生

宿所

東京外國語學校長氏名殿

第二號書式 (用紙同前)

履歷書

學業

一年月日何地(官、公、私立)何學校ニ入り何學科何等級修業或ハ全學科卒業又ハ何某ニ從ヒ何學何年間受業用書何々
(卒業證書ヲ有スル者ハ其寫ヲ添付スヘシ)

賞罰

一年月日何所ニ於テ何賞罰ヲ受ケタル等

以上

年月日

氏 名 印

第三號書式 (用紙同前)

在學證書

本籍族職業

(戸主ニアラサル者ハ)
何某男又ハ弟等

氏 名

印紙
貼用

右之者今般入學御許可相成候ニ付テハ同人在學中ニ係ル一切ノ事件ハ某等ニ於テ相引受可申候也

族籍職業

正保證人 氏 名 印

住所東京府區市町村番地

族籍職業

年月日

副保證人

氏

名 ㊦

住所東京府郡區市町村番地

東京外國語學校長氏名殿

前書正保證人何某ハ丁年以上ニシテ當郡區内ニ居住シ一家計ヲ立ツル者ニ相違無之候也

年月日

何郡區長 氏

名 ㊦

前書副保證人(以下前同文)

年月日

何郡區長 氏

名 ㊦

第五章 試業進級及卒業

第二十五條 試業ハ學期試業及學年試業ノ二種トス

學期試業ハ各學期中履修シタル學科ニ就キ第一學期及第二學期ノ末ニ於テ之ヲ行フ學年試業ハ其學年中履修シタル學科ニ付キ學年ノ末ニ於テ之ヲ行フ

第二十六條 評點ハ各科目一百ヲ以テ最高點トス

第二十七條 各科目ノ學期評點ハ平常點及學期試業評點ヲ以テ算定ス但シ教員

ノ見込ニ依リ平常點ヲ以テ學期評點トナスコトヲ得

第二十八條 學期成績及學年試業成績ハ各科目ノ評點ヲ平均シテ得タルモノトス

第二十九條 學年成績ハ學期成績ト學年試業成績ノ和ヲ三除シテ得タルモノトス

第三十條 學年試業ニ缺席シタルモノハ其理由及平素學業成績ヲ斟酌シテ追試業ヲ行フコトアルヘシ

第三十一條 每學年ノ末ニ於テ各學期成績五十點以上學年成績六十點以上ノ者ヲ及第トシ第一年生第二年生ハ之ヲ進級セシメ第三年生ハ之ニ卒業證書ヲ授與ス

第六章 授業料

第三十二條 授業料ハ一學年ニ付金貳拾圓トシ每學年九月二月ノ二回ニ分チ指定ノ日ニ於テ其半額ヲ徴收ス

第三十三條 授業料納付期日ニ違フ者アルトキハ其保證人ニ通知シ若シ通知ノ當日ヨリ二週日以内ニ納付セサルトキハ除名ス

第三十四條 一旦納メタル授業料ハ何等ノ場合ト雖モ之ヲ返付セス

第三十五條 病氣其他ノ事故ニ因リテ久シク缺席スルトモ本校ノ學籍ニアル間ハ授業料ヲ徴收ス

第七章 副科

第三十六條 本校所定學科ノ外更ニ副科トシテ經濟學、國際法、教育學ノ三學科ヲ置ク三年級ノ生徒ハ其志望ニ依リ副科中ノ一學科若シクハ二學科ヲ兼修スルコトヲ得

第八章 特待生

第三十七條 二年級以上ノ生徒ニシテ學術優等品行方正ナル者ヲ選ヒ特待生ト爲スコトアルヘシ

第三十八條 特待生ハ授業料ヲ徴收セス

第三十九條 特待生ハ每學年ノ末ニ於テ學年成績ニ依リ校長之ヲ定ム

第四十條 疾病等ノ爲メ學業ヲ怠リ若クハ特待生タル品位ヲ傷フヘキ行爲アルト認ムルトキハ特待生タルコトヲ罷ム

第九章 貸費

第四十一條 貸費ヲ分テ保護貸費ト獎學貸費ノ二種トス

第四十二條 保護貸費金ハ官費ヲ以テ獎學貸費金ハ官廳ノ委託金又ハ有志者ノ寄附金ヲ以テ之ヲ充ツ

第四十三條 本科生ニシテ特別ノ保護ヲ要スル學科ヲ修メ學力優等品行方正ニシテ學資支辨ノ途ナキモノニハ當該年間年額百圓以内ノ學資ヲ貸附スルコトアルベシ

第四十四條 本科生ニシテ學力優等品行方正ニシテ學資支辨ノ途ナキモノニハ當該年間百圓以内ノ獎學金ヲ貸附スルコトアルベシ

第四十五條 貸費ヲ受ケント欲スルモノハ其學業ノ目的及ビ貸費希望ノ理由ヲ具シタル願書ヲ保證人連署ノ上校長ヘ差出スベシ

第四十六條 會社又ハ一人ヨリ貸費資金ヲ差出ストキハ其目的ニ從ヒ甲乙ノ

式ニ依リ開陣書ニ通ヲ差出シ校長ノ許諾ヲ受クヘシ其一通ハ出金者之ヲ受領シ一通ハ本校ニ保存スヘシ

第四十七條 貸費ヲ受クル者ハ丙號ノ式ニ依リ誓約書ヲ差出スベシ其官廳會社等ヨリノ依頼ニ係ルモノハ二通ヲ差出シ一通ハ出金者ニ送附シ一通ハ本校ニ保存スヘシ

第四十八條 貸費ヲ受ケタル者ハ卒業ノ翌月ヨリ貸費ヲ受ケタル月數ニ二倍スル期限内ニ於テ其貸費金額ヲ月賦ヲ以テ返納スベシ貸費ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ之ヲ返納スルニ及ハス

第四十九條 貸費ヲ受クル者學業懈怠品行不良等ノ故ヲ以テ成業ノ見込ナシト認ムルトキハ貸費ヲ止ム

前項ニ依リ貸費ヲ止メラレタル者又ハ自己ノ都合ニ依リ退學シタル者ハ其當日ヨリ三十日以内ニ既ニ受ケタル貸費金額ニ對シ一ケ年六分ノ利子ヲ付シ全額ヲ返納スベシ

第五十條 貸費ヲ受クル者修學中疾病ニ罹リ成業ノ見込ナシト認ムルトキハ貸

費ヲ止ム此場合ニハ既ニ受ケタル貸費金額ハ第四十八條第一項ニ準シ之ヲ返納スベシ

第五十一條 寄付者ハ貸費ヲ受ケタル者ヲ貸費ヲ受ケタル年數ト均シキ期限内相當ノ報酬ヲ以テ某事業ニ從事セシムルコトヲ條件トスルコトヲ得

第五十二條 總テ返納金ハ本人之ヲ納メザルトキハ保證人ヨリ辨償スベシ

第五十三條 保證人死去又ハ東京府外ニ轉居スルカ若クハ其資産ヲ失フタルトキハ速ニ代人ヲ立テ誓約書ヲ書換ユヘシ

甲 號 (用紙美濃紙)

出金者開陳書

何語學科生徒何名分學資トシテ年々金何圓ヲ東京外國語學校ヘ差出候間相當ノ生徒御撰定貸與相成度尤右學生卒業ノ上ハ某事業ニ從事爲致度儀ニ有之候間此旨兼テ誓約御申付相成度此段開陳候也

年月日

住所族籍

姓

名 印

東京外國語學校校長宛

乙 號 (用紙同前)

何語學科生徒獎學ノ爲メ金何圓(或ハ年々金何圓何回)東京外國語學校へ差出候間相當ノ生徒御撰定貸與相成度尤右生徒卒業ノ上從事ノ職業別ニ制限不致候間貸與學資ハ御校ノ規定ニ從ヒ返納爲致更ニ他ノ生徒ニ御貸與相成生徒増加候様致度此段開陳候也

住所族籍

年月日

姓名印

東京外國語學校校長宛

丙 號 (用紙同前)

誓約書

私儀本年何月ヨリ何年何月迄金何圓(本校獎學)ノ貸費相受候ニ付テハ御校貸費規程ヲ遵守シテ(何々ノ事業)ニ從事可仕萬一違背ノ節ハ保證人連帶ヲ以テ返納金其他一切ノ責ニ任スヘク仍テ保證人連署ヲ以テ誓約候也

東京外國語學校何語科生徒

本人 氏 名 印

年月日

住所東京府郡區町村番地

族籍職業

保證人 氏 名 印

全 上

族籍職業

保證人 氏 名 印

東京外國語學校校長宛

別科規程

第一條 別科ハ速成ヲ旨トシ本校所定ノ各語學ヲ教授スル所トス

第二條 別科ハ職業ヲ有スル者若クハ其他特別ノ事情アル者ニ限り校長ノ意見ニ依リ入學ヲ許ス

第三條 別科ノ修學年限ハ二箇年トス

東京外國語學校規則

第四條 別科ハ各學期ノ始ニ於テ入學ヲ許ス
 但シ第二學期第三學期ノ始ニ於テ入學セントスル者ハ前學期ノ學科ニ相當ス
 ル學力アルコトヲ要ス
 第五條 別科第一年度ニ入ラントスル者ハ入學試験ヲ要セス但シ必要ト認ムル
 トキハ試験ヲ行フコトアルヘシ
 第六條 別科生ハ入學試験ヲ要スルト否トニ關セス入學料トシテ金壹圓ヲ納付
 スヘシ但シ第二章第五條ニ依テ兼修スル者ハ入學料ヲ徴セス
 第七條 別科生ノ授業料ハ一學年ニ付金拾圓トシ第一學期ニ四圓第二學期ニ參
 圓第三學期ニ參圓ヲ指定ノ日ニ於テ徵收ス但シ第二章第五條ニ依テ兼修スル
 者ハ本文ノ金額ヲ半減ス
 第八條 別科ノ試業ハ第五章ノ試業規程ヲ斟酌シテ之ヲ行フ
 第九條 二學年ノ課程ヲ修了シタル者ハ之ニ修學證書ヲ授與ス
 第十條 別科ノ授業時間ハ每週十時間以內トス
 第十一條 別科ハ別ニ學級ヲ編成シテ之ヲ教授シ又ハ都合ニ依リ本科ト合併シ

テ教授スルコトアルヘシ
 第十二條 入學及退學ニ關スル手續ハ第四章ノ規定ニ依ル
 第十三條 此外ノ規程ハ本校一般ノ條規ヲ適用ス

寄附金

本校設置以來金員若クハ物件ヲ寄贈セシモノ左ノ如シ

寄贈者クハ物件及寄贈ノ名義	寄贈者
伊語科生徒獎學貸費金	伊語協會長

生徒心得

第一條 校內所定外ニ於テ飲食喫煙スヘカラス
 第二條 睡ハ唾壺ニ吐クヘシ
 第三條 帽子外套其他ノ携帶品ハ所定ノ場所ニ整置スヘシ
 第四條 登校ノ節本科生ハ制服制帽ヲ着用シ別科生ハ洋服又ハ袴ヲ着用スヘシ

第五條 病氣其他正當ノ理由ヲ以テ缺課スルトキハ當日又ハ次日ニ缺課時間ノ受持教員ヘ缺課理由ヲ陳言シ其承認ヲ經タル届書ヲ差出スヘシ其病氣ニ週間以上ニ及フハ更ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ届出ツヘシ

第六條 校長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ校内ニ於テ漫ニ會同スヘカラス

第七條 本籍氏名又ハ宿所ヲ變更シタルトキハ速ニ届ケ出ツヘシ

第八條 凡ソ告示ハ之ヲ掲ケタル日ヨリ一般ニ知了シタル者ト認ムルヲ以テ常ニ之ニ注意スヘシ

第九條 校舎器具其他校内一切ノ物品ハ專ラ鄭重ニ取扱フヘシ若シ汚損又ハ亡失シタルトキハ直ニ其旨ヲ教務課ニ申出テ處置ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ當リ若シ其本人知レサルトキハ一室内又ハ全般ノ者ヲシテ其責ニ任セシムルコトアルヘシ

第十條 規則ニ悖戾スル者他人ヲ煽動シテ校規ヲ紊ス虞アル者職員ノ命令訓戒ニ従ハサル者其他苟モ本校生徒タル品位ヲ傷フヘキ言論行爲ヲナスモノハ各其情狀ニ依リ處罰ス

本校生徒現員

三十三年九月末日調

英語本科第三年級

青柳 幹 一 平山梨縣民	隈川 修 吾 平東京府民	高橋 行 次 滋賀縣民
堀井 隼之助 平大坂府民	中園 修 吾 平神奈川縣民	武久 郁 雄 平福井縣民
平井 隼之助 平大坂府民	尾上 瀧太 郎 平福岡縣民	伴野 八 郎 平兵庫縣民
上條 辰 藏 平長野縣民	齋藤 千 之 平兵庫縣民	
古賀 十二 郎 平長崎縣民	高岡 讓 平和歌山縣民	

秋元 正 四 平東京府民	伊藤 常重 郎 平三重縣民	御子 柴 賴 一 平長野縣民
青木 松之 丞 平島根縣民	桂田 次 郎 平島根縣民	村岡 壽 春 平鳥取縣民
赤羽 淺之助 平長野縣民	熊田 敏 平滋賀縣民	宮島 孫 三 郎 平長野縣民
伊藤 正胤 平高知縣民	宮崎 議 平北海道民	野口 兼 太 郎 平東京府民

同 第二年級

本校生徒現員 英語本科第三年級 第二年級

小西喬一	龜井松太郎	池田政雄	畑中猶三	尾藤喜久次	新井謹三郎
平和歌山縣民	平大坂府民	平鹿兒島縣民	平大坂府民	平愛知縣民	平京都府民

島田勝之助	大內敬一	僧田所之進	村瀨信次	川名安次郎	喜多川清
平東京府民	平茨城縣民	平福井縣民	平東京府民	平千葉縣民	平東京府民

山崎一郎	田久保昌雄	齋藤武夫	關久之助	志賀要次郎
士青森縣民	士熊本縣民	平岡山縣民	平京都府民	士東京府民

全

第一一年級

松島榮	守經雄	井上田園郎	石谷貴矩	藤田完太郎	淺野千里
士靜岡族縣	平東京府民	士東京府民	平三重縣民	士北海道族縣	平長野縣民

鹽山要	佐藤武則	笈田敏野	小田精吉	西山德太郎	中川豆介
平東京府民	士長野縣民	士福井縣民	士東京府民	士東京府民	士福井族縣

吉田	矢橋春	若橋耿介	高木利雄
士福井族縣	士京都府民	士茨城縣民	士沖繩族縣

全

第二二年級

加藤秀鄉	小島文八	巖谷春生	平岡七郎
平三重縣民	士靜岡族縣	士滋賀族縣	士靜岡族縣

成島朝一	松本俊造	金子知良	兒玉彌彦
士靜岡族縣	士千葉族縣	士長崎族縣	士鹿兒島族縣

鶴來和之	武村元藏	尾花繁太郎
平東京府民	士東京府民	平德島縣民

佛語本科第三年級

小山田千代壽	奧村勢一	小野清一	大橋榮三	野田久三郎	並河昭廣
士青森族縣	士佐賀族縣	士東京府民	平東京府民	平大坂府民	士滋賀族縣

湯淺	山本英造	田中恒介	寺中幸之助	鈴木木利貞	關善八
	平東京府民	士山口族縣	士和歌山族縣	平鳥取縣民	平熊本縣民

上杉憲章	澁谷治郎	前田勝藏	淵上	惣津滿壽
士華山縣民	平新潟縣民	平東京府民	士福岡族縣	平岡山縣民

獨語本科第三年級

原村五郎 平東京府民

丸勝藏 平千葉縣民

佐々木常三郎 平宮城縣民

全

第二年級

青山民子 雄華東京府民

海江田虎次郎 華東京府民

蘆塚利仲 平長崎縣民

笠原正樹 平長野縣民

堀田正次 士宮城縣民

丹羽弘 平愛知縣民

井門荒三郎 士熊本縣民

中島龜彦 士東京府民

岡部良齊 平三重縣民

全

第一年級

秋元喜久雄 平靜岡縣民

北條力之助 平靜岡縣民

赤尾友三郎 平富山縣民

羽根田輝 士福島縣民

伊藤英樹 士高知縣民

今井潔 平新潟縣民
伊藤一郎 士東京府民
石垣保之助 平東京府民
小池正晁 士山形縣民
金井俊英 平長崎縣民
金原三郎 平靜岡縣民

桐川半七 平千葉縣民
虫明嘉源次 士岡山縣民
野田幾太郎 平福岡縣民
大槻正人 平東京府民
里見太 士長野縣民
莊直一 平岡山縣民

澤田退藏 平靜岡縣民
坂部正藏 士山形縣民
武田爲次 士宮崎縣民
竹野芳太郎 士大阪府民
富井泰 平兵庫縣民

露語本科第三年級

飯田愿 平宮城縣民

和泉良之助 士茨城縣民

長谷川作次 平石川縣民

河村國松 平岐阜縣民

井田孝平 士東京府民

近藤寶五郎 平神奈川縣民

菅野金三郎 士佐賀縣民

五十嵐清 士岡山縣民

鈴木覺太郎 平宮崎縣民

島田嘉一郎 平埼玉縣民

全

第二年級

本校生徒現員 獨語本科第三、二、一年級 露語本科第三、二、一年級 三十三

鮎貝冬雄長野縣
 平塚若磨茨城縣
 市川寅次郎福岡縣
 池田鑣太郎大分縣
 岩間光次郎東京府

伊崎千秋茨城縣
 久網小次郎愛知縣
 股野貫之兵庫縣
 村田乙三郎東京府
 水野島治郎愛知縣

竹內秀三長崎縣
 竹內彌惣次三重縣
 山口勇太郎長崎縣

全 第一年級

淺羽郷東京府
 馬場誠之埼玉縣
 藤井孝八郎栃木縣
 羽中田諱策山梨縣
 樺山猛一鹿兒島縣
 栗原信男東京府
 木暮謙二群馬縣

川角忠雄愛知縣
 剛崎虎彦熊本縣
 兒玉豐鹿兒島縣
 熊谷直吉秋田縣
 松田衛大分縣
 野村義郎三重縣
 中田幾太郎廣島縣

緒方整熊本縣
 櫻井又男熊本縣
 清水三三山梨縣
 鈴木新吉東京府
 鈴木相之助福井縣
 武林男三郎大阪府
 田代錦太郎熊本縣

八木明昌東京府

山下義雄山梨縣

伊語本科第二年級

粟田三吾東京府
 小林重縣長野縣

小林武磨東京府
 永井義曆神奈川縣

宇野鐵二愛知縣
 山本正雄茨城縣

西語本科第三年級

平松輝太郎三重縣
 河村真義熊本縣

森醇一佐賀縣
 松木賢吉高知縣

丸井三次郎和歌山縣

全 第二年級

波佐谷慶發北海道廳
 南喬一兵庫縣
 南秀吉和歌山縣

中山九萬長野縣
 岡田庫次岐阜縣
 竹下末吉島根縣

渡部三彦栃木縣
 四枝綱吉鹿兒島縣

本校生徒現員 伊語本科第二年級 西本語科第三年級

清語本科第三年級

阿部生居造	池田良榮	永野武馬
青柳義作	古賀邦彦	奧津銀平
船橋甚一	糟谷好助	曾谷健吾
岩原大三郎	蔭山石五郎	吾平廣島
士東郡族	士德島族	平廣島族

全

第二年級

林要五郎	松本土農夫	寺田由衛
堀田延千代	松村孫一	高鳥長
石垣光義	大部八洲夫	若林
增井茂松	佐藤	明治
平重民	平茨城民	士東郡族

全

第一年級

韓語本科第三年級

井上筆次郎	諸岡三郎	梅村美誠
倉澤保郎	大中熊雄	八木直藏
河野鶴松	佐藤啟治	藏靜岡
紀田寬作	竹內脩吉	平靜岡民
平熊本民	平三重民	

天野雄之輔	加藤勝之助
江崎精一	西田禎一
平愛知民	士大分族

全

第二年級

福原資孝	國方章二	綿引鶴松
藤戶計太	櫻村武雄	山本恒太郎
伊東四郎	鈴木修三	橫山吏郎
木下蕃	多田謙三	渡邊倉藏
平福井民	平長野民	平福島民

本校生徒現員 清語本科第三、二年級 韓語本科第三、二年級

小川	多川	蟻川	直木	村岡	野村	松平	三谷	松野	守山	丸山	三室	川村
織	久	光	倫	壽	教	直	氏	龍	政	庸	戶	瓊
三	節	郎	郎	春	吉	敬	郎	雄	吉	二	光	一
士兵	士東	平京	平兵	平鳥	士岡	華東	平香	士佐	平長	士和	華京	平東
庫族	京府	都府	庫縣	取縣	山族	京府	川縣	賀縣	崎縣	歌山	都府	京府

獨語別科第二一年級

齋木	鹿野	島野	齋藤	關次	佐藤	杉浦	佐藤	白井	柴崎	佐野	岡田	小川
延次	岩次	宗次	久	次	純太	朝	安之	傳三	良	靜	武	愛二
郎	郎	郎	孝	郎	郎	武	助	郎	三	雄	松	郎
士廣	平石	平東	士兵	士長	士石	士愛	平東	平長	平山	士崎	平千	平東
島族	川縣	京府	庫縣	野族	川族	媛族	京府	野縣	口縣	玉族	葉縣	京府

安宅	山下	山本	山下	山內	植地	內山	田尻	高垣	田村	高木	關善	菅野
德太	安太	高	正	直		正	平一	雷太	保	隆	善	榮次
郎	郎	一	己	光	升	居	郎	郎	三	學	八	郎
士岩	平崎	士東	士山	士愛	士宮	士三	平宮	士東	平千	士東	平熊	平福
手族	玉縣	京府	形族	媛族	城族	重族	崎縣	京府	葉縣	京府	本縣	島縣

川島	井口	藤井	古谷	福井	磯野
庄一	龍太	長	知	久	清
郎	郎	藏	新	藏	助
平歌	士東	士三	平山	平兵	平東
山縣	京府	重縣	梨縣	庫縣	京府

全

第一一年級

岡本	乙竹	永井	柏原	片山	可兒
	岩	信	吉五	外與	兒
	岩	賢	郎	作	德
士兵	士三	平東	平長	士東	士坡
庫族	重縣	京府	野縣	京府	早族

保田	上田	新海	酒井
久三	長	兵	政
郎	藏	衛	吉
平京	平京	平長	平石
都府	都府	野縣	川縣

古川	榎本	出淵	土居	中條	安藤
四勝	三勝	次勝	之助	次郎	兼三
郎	三	次	助	郎	郎
士東	平東	士岩	士高	士千	平東
京族	京府	手縣	知縣	葉縣	京府

堀原	萩原	平原	本多	長谷
興	芳	芳太	七友	川乙
三	孝	郎	郎	彦
平三	士茨	士崎	平岡	平新
重縣	城縣	玉縣	山縣	湯縣

今津	伊藤	岩森	石井	平木	樋口
重	弘	彌	保	安之	兼
輔	一	助	男	助	治
平山	平千	平山	平東	平福	平東
口縣	葉縣	口縣	京府	岡縣	京府

本校生徒現員獨語別科第二一年級第一一年級 露語別科第二一年級 四十一

岩村

透京都府華都族

平松幾比古和歌山縣

全

第一年級

安生彰平東京府
稻田健夫三重縣

石高令太新潟縣
森田鐵三郎新潟縣

野口廣二東京府
吉田彌平德島縣

西語別科第二一年級

鈴木三郎千葉縣

全

第一一年級

赤羽信夫福島縣

萩原秀次郎東京府

渡邊周三郎栃木縣

青山嘉次郎岡山縣
福島末光三重縣

森米八郎長崎縣
下村林三郎京都府

清語別科第二一年級

綾野磯太郎大阪府

上仲尙明京都府

大橋未彦東京府

江藤豐二鹿兒島縣

皆川秀孝茨城縣

關藤菊芳歷京都府

稻澤珍三郎宮城縣

村上謙吉東京府

白藤芳夫東京府

岸峰次郎鳥取縣

根本常太郎東京府

高比良勝二長崎縣

菊池三九郎東京府

中田金次郎東京府

田中權一平石川縣

唐澤祐慶東京府

岡田瓢丸長野縣

辻幸吉士鳥取縣

菊川龜次郎熊本縣

太田繁士東京府

田中權一平石川縣

神谷寬二愛知縣

大久保宣家東京府

辻幸吉士鳥取縣

全

第一一年級

平塚若磨茨城縣

兒玉貞雄山口縣

藻谷常太郎富山縣

細谷多人也廣島縣

黑澤兼次郎富山縣

中川源三郎京都府

伊澤信一山口縣

村田鐵三郎愛媛縣

樽崎一良平埼玉縣

金澤直吉新潟縣

益田御代松山縣

永井誠也京都府

本校生徒現員西語別科第二一年級 清語別科第二一年級

學科別		本	科	別	計	合
英	語	第三年生	第二年生	第一年生	計	第二年生
科	科	第一年生	計	別	第一年生	計
一三	二九	四二	一四	一六	三〇	七二

大關	金太	郎	平東京府
大宮	豐三	郎	平東京府
澤	武雄	平東京府	
齋藤	鐵二	郎	平愛知縣
井上	安次	郎	平京都府
安達	乙熊	平山口縣	

武井	三平	平埼玉縣
宅野	潔	平山口縣
瀧澤	泰洋	平東京府
吉安	延太郎	平福岡縣
山田	謙吉	平大分縣
吉田	英三	平東京府

本校生徒學科及年級表 (二十三年九月末日調)

全 第一年級

科別		最	高	最	低	平	均
佛	語科	一一	一六	四四	六	五七	一〇七
獨	語科	五	一一	四〇	一六	五四	一一〇
露	語科	一一	一三	四七	七	二四	七八
伊	語科	六	六	六	二	六	一四
西	語科	五	八	三	一	七	二一
清	語科	一一	一一	三三	三	二二	七六
韓	語科	四	一五	一九	一	一	二一
合	計	六〇	一一〇	二四三	六九	一八七	四九九

本科	三年級	二七、一一
本科	二年級	三六、〇三
本科	一年級	二五、〇七

本校生徒學科及年級表

本校生徒年齡表

四十七

別科
二年級
一年級

三九、〇三
三七、〇九

一六、〇五
一七、〇六

二四、一〇
二六、一〇

本校卒業生及其就職ノ場所

本科卒業生 (明治三十三年七月第一回卒業)

英語科 (十人)

- 片山寛 長野縣士族
- 星野幹 東京府平民
- 松浦與三松 福井縣平民
- 渡邊謙二 三重縣士族
- 芹澤政衛 靜岡縣平民
- 森川乙猪 高知縣士族
- 高野圭一 茨城縣平民
- 奧坂角太郎 德島縣士族
- 新潟商業學校教員
- 新潟中學校教員
- 福岡師範學校教員
- 大坂府第二中學校教員
- 山口萩中學校教員
- 山口中學校教員

兵庫縣柏原中學校教員

佛語科 (三人)

東京外國語學校助教

大藏屬

獨語科 (七人)

- 長餘三郎 石川縣平民
- 星野政吉 東京府平民
- 瀧村立太郎 東京府士族
- 宮崎幹太郎 大坂府士族
- 二宮猪象 香川縣平民
- 田代光雄 東京府士族
- 安樂直作 鹿兒島縣士族
- 弓削久兵衛 千葉縣平民
- 上村哲三 鹿兒島縣士族
- 久野英一 愛媛縣士族
- 中村達雄 山口縣士族
- 井手岩吉 佐賀縣士族

獨乙協會學校講師

外務屬

學習院

本校卒業生及其就職ノ場所 英佛獨露西清韓科

露語科 (五人)

陸軍大學校
 哥爾薩港領事館
 陸軍通譯北京在勤

鈴木尙三 東京府平民
 山口爲太郎 愛知縣平民
 古澤幸吉 北海道士族
 秋元義親 東京府士族
 田中乙 福井縣士族

西語科 (三人)

仙臺第二師團
 一年志願兵
 外務省
 實業

厚見元治 兵庫縣平民
 金澤一郎 兵庫縣士族
 伊東信一 愛知縣士族

清語科 (九人)

東京外國語學校助教
 清國芝罘第百銀行員
 在北京日本公使館

岡本正文 愛媛縣士族
 上田三德 東京府平民
 齋藤勝治 佐賀縣平民

神戶大坂商船會社員
 在北京警務衙門東安民公所員
 全上 西安民公所員

韓語學 (三人)

外務屬
 東京外國語學校助教

寺本寅彦 熊本縣平民
 佐藤新太郎 山形縣士族
 河崎武 熊本縣士族
 島田翰 東京府士族
 宮内元 千葉縣士族
 滿永鐵太 熊本縣平民

別科卒業生 (明治三十二年七月第一回卒業)

英語科 (十二人)

高橋行次 滋賀縣士族

別科卒業生 英佛科

佛語科 (九人)

野一色千七郎	靜岡縣士族
黒川善一	東京府士族
岡田明達	愛知縣士族
大西成太	香川縣平民
黒田茂次郎	長崎縣士族
三宅貞齋	東京府平民
園田辰三郎	東京府士族
小山英吾	東京府士族
小山市太郎	東京府士族
松下專吉	静岡縣士族
浦壁長富	東京府士族
服部邦光	長崎縣士族
歸山信順	石川縣士族

獨語科 (六人)

宮城大太郎	千葉縣士族
大野若三郎	神奈川縣平民
山内健吉	岐阜縣平民
金光泰	大分縣平民
新原俊秀	宮崎縣士族
鈴木彌次平	静岡縣平民
松原常次郎	東京府平民
幸田成友	東京府士族
松岡定	熊本縣士族
中村平作	新潟縣平民
宮田義敬	東京府士族
澤田鉦義	神奈川縣士族
内崎復	東京府平民

露語科 (三人)

澤井才治 新潟縣平民
田中與五郎 大坂府平民

西語科 (三人)

津田弘季 岡山縣士族
渡邊清 東京府士族

清語科 (六人)

實業
日高賢吉郎 長崎縣士族
小川運平 埼玉縣平民
鎌田彌助 鹿兒島縣士族
加納政太郎 東京府平民
泉水信太郎 千葉縣平民
坂野竹之助 茨城縣平民
陸軍通譯北京在勤
在上海日本領事館在勤

明治三十三年七月第二回卒業

英語科 (六人)

田中虎雄 埼玉縣士族
的場悌 和歌山縣士族
高比良勝二 長崎縣平民
大高隼太郎 東京府士族
中川源三郎 京都府士族
鳥越盛 佐賀縣士族
佛語科 (三人)
神谷龍彦 愛知縣士族
井出哲 東京府士族
獨語科 (九人)
吉田六之助 千葉縣平民

- 露語科 (三人)
- | | |
|-------|--------|
| 今福忍 | 神奈川縣平民 |
| 松山正治 | 東京府士族 |
| 堀常次郎 | 岐阜縣平民 |
| 中島松次郎 | 岩城縣平民 |
| 德永晶美 | 東京府士族 |
| 岩崎半次 | 茨城縣平民 |
| 山田又市 | 新潟縣平民 |
| 歌原兼良 | 愛媛縣士族 |
| 磯野清助 | 東京府平民 |
| 岡部重一郎 | 東京府士族 |
| 佐伯迅二郎 | 和歌山縣士族 |
| 松尾長之助 | 佐賀縣平民 |

西語科 (二人)

清語科 (七人)

- | | |
|-------|--------|
| 堀口福彦 | 岡山縣士族 |
| 田中慶太郎 | 京都府平民 |
| 中島比多吉 | 埼玉縣平民 |
| 佐藤長次郎 | 埼玉縣士族 |
| 福崎三次郎 | 鹿兒島縣士族 |
| 高岩勘次郎 | 福岡縣平民 |
| 龜山玄明 | 岐阜縣平民 |
| 大久保家道 | 東京府士族 |

明治三十三年七月本校卒業證書授與式ニ於ケル演說
祝詞等

上田校長演說

文部大臣并各國公使閣下及ヒ來賓諸君本日茲ニ東京外國語學校ノ第一回卒業式

ヲ舉行スルニ當リ閣下及ヒ諸君ノ來臨ヲ辱ウセルトハ本校長及ヒ校員一同ノ深ク面目トスル所ナリ

本校ハ明治二十九年一月貴衆兩院ノ建議ニ基キ明治三十年四月高等商業學校附屬外國語學校トシテ設立セラレ全年七月規則ヲ制定シテ英、佛、獨、露、西、清、韓ノ七語學科ヲ設ケ生徒ヲ本科別科ノ二種ニ區別シ本科ヲ三ヶ年別科ヲ二ヶ年ノ修業年限トシ全年九月ヨリ之ヲ實施セリ明治三十二年四月勅令ヲ以テ本校ヲ東京外國語學校ト改稱セラレ校舍ヲ現在ノ地ニ移シ全時ニ伊太利語ノ一科ヲ加ヘテ八語學科トナシ全年九月ヨリ伊語學科生徒ヲシテ業ニ就カシメタリ而シテ本學年末ニ於ケル生徒ノ員數ハ本科ニ於テ八語學科各學年ヲ通シテ二百三十六名別科ニ於テ英、佛、獨、露、伊、西、清ノ七語學科各學年ヲ通シテ百七十名本科別科ヲ併セテ總數四百六名ナリ

此中ヨリ今回卒業セルモノハ本科ニ於テ總テ四十名之ヲ本校第一回ノ本科卒業生トス又別科ノ修了生ヲ出スハ今回ヲ以テ第二回トス第一回別科修了生ハ昨年七月ヲ以テ其業ヲ終ルモノニ係リ英、佛、獨、露、西、清ノ六語學科ヲ通シテ三十七名今

回ノ別科修了生ハ全ジク上述ノ六語學科ヲ通シテ二十九名ナリ

本校ハ創設以來僅ニ三年ヲ經過スルニ止マリ百般ノ施設未タ完キヲ得スト雖モ今後着々歩ヲ進メテ本校ガ帝國唯一ノ外國語學校トシテ爲スヘキ所ヲナサンコト期ス又別科ハ職業ヲ有スル者若クハ其他特別ノ事情アル者ニ速成ヲ旨トシテ本校所定ノ各外國語ヲ教授スルモノナレハ之ヲ改良擴張シテ一層社會ノ必要ト希望トニ副フモノタラシメンコトハ亦本校ノ企畫スル所ナリ

以上ヲ以テ本校學事報告ノ概要トスコレヨリ來賓諸君ノ許可ヲ得テ卒業生及ヒ修了生ニ一言ヲ告グントス

本科卒業ノ諸子ハ實ニ本校第一回卒業生タルノ榮譽ヲ擔フモノタルト全時ニ諸子カ將來ノ成績如何ハ皆以テ直ニ本校ノ價值ヲ定ムルノ標準トナラン諸子ハ各々勵精自重シ各自所修ノ外國語ヲ以テ國家有用ノ器トナランコトヲ切望ス又別科修了ノ諸子ハ本務多忙ノ身ヲ以テ修メ得タル外國語ニヨリテ各自ノ本務又ハ別ニ執ラントスル職務ニ裨益スルコト多カラントヲ希望スカクテ卒業生モ修了生モ或ハ外政ノ上ニ或ハ工商業ノ上ニ或ハ學術教育ノ上ニ各自所修ノ外國語ヲ以テ

寄與スルヲ多カラントハ獨リ本校長ノ諸子ニ希望スル所タルニ止マラス亦實ニ
國家カ刮目シテ諸子ニ要求スル所ナリ諸子勉旃

樺山文部大臣祝詞

今日東洋ノ表ニ立チ宇内生存競争ノ衝ニ當ル固ヨリ列國ノ趨勢ニ明ニ兼テ又其
事情ニ通曉セサルヘカラス而シテ東西言語ノ異ナル往々彼我ノ事情ヲ誤解シ事
端ヲ生スルノ恐ナキニアラス國際間ノ關繫益々親密ヲ加フルニ當リ廣ク外國語
ヲ練習スルハ我國民ノ急務ニシテ本校設置ノ要旨又之ニ外ナラス
當校獨立以來卒業生ヲ出スハ諸子ヲ以テ嚆矢トス是レ獨リ諸子一身ノ榮ノミニ
止マラス亦本校ノ榮ト云フヘシ
將來中外交通ノ途益々繁忙ニ赴クヘキハ固ヨリ言ヲ俟タス而シテ諸子カ此間ニ
處シ國家ノ光榮ト利益トヲ發揮擴充シ以テ中外ノ交親ヲ厚ウシ本日諸子カ受領
セル名譽ヲ全ウセラレントハ本大臣ノ信シテ疑ハサル所ナリ一言祝意ヲ表シ併
セテ諸子ノ健康ヲ祈ル

本科卒業生總代英語學科片山寬謝辭

校長閣下並ニ教官諸君ノ懇篤ナル薰陶ノ下ニ規定ノ學課ヲ畢リ今日本校本科第
一回卒業式ヲ舉行セラル、ニ當リ大臣閣下並ニ内外貴顯ノ光臨ヲ辱ウス生等ノ
光榮何者カ之ニ過キン特ニ大臣閣下ノ深厚ナル訓辭ト校長ノ適實ナル警告ヲ賜
ハリタルハ更ニ生等ノ感佩ニ堪ヘサル所ナリ生等不肖ノ身ナリト雖モ粉骨精勵
敢テ各自ノ責任ヲ全ウシ以テ本日ノ光榮ニ負カザランコトヲ期ス謹ミテ謝辭ヲ
呈ス

別科修了生總代清語學科田中慶太郎謝辭

茲ニ本日ヲトシ東京外國語學校證書授與式ヲ舉行セラル不肖等亦諸教授閣下ノ
懇篤ナル指導ニヨリ所定ノ業ヲ了ヘテ此盛式ニ列スルヲ得光榮曷ゾ之ニ加シ不
肖等爾後學ヲ所ヲ以テ各自ノ業務ニ當リ勉メテ功果ヲ將來ニ収メンコトヲ期ス聊
カ此ニ數言ヲ述ヘ以テ謝辭トス

別科生徒職業區分表

職業別	人員
官公吏	七六

陸海軍人
 高等師範學校教員
 中學校教員
 小學校教員
 各種學校教員
 醫師
 僧侶
 銀行會社員
 自家營業者
 新聞記者著作業
 官立學校卒業生及學生生徒
 公立學校生徒
 本校卒業生及別科修了生
 本校本科生徒
 合計

二〇
 五
 二
 一
 六
 九
 九
 二
 四
 二
 三
 四
 二
 三
 一
 七
 三
 三
 二
 五
 二

本科 生府縣乃

府縣	英語科		佛語科	
	三年級	二年級	三年級	二年級
北海道	1	1	1	1
東京	1	1	1	1
京都	1	1	1	1
大阪	1	1	1	1
神奈川	1	1	1	1
兵庫	1	1	1	1
長崎	1	1	1	1
新潟	1	1	1	1
埼玉	1	1	1	1
群馬	1	1	1	1
千葉	1	1	1	1
茨城	1	1	1	1
栃木	1	1	1	1
奈良	1	1	1	1
三重	1	1	1	1
愛知	1	1	1	1
静岡	1	1	1	1
山梨	1	1	1	1
滋賀	1	1	1	1
岐阜	1	1	1	1
長野	1	1	1	1
宮城	1	1	1	1
福島	1	1	1	1
岩手	1	1	1	1
青森	1	1	1	1
山形	1	1	1	1
秋田	1	1	1	1
福井	1	1	1	1
石川	1	1	1	1
富山	1	1	1	1
鳥取	1	1	1	1
島根	1	1	1	1
岡山	1	1	1	1
廣島	1	1	1	1
山口	1	1	1	1
和歌山	1	1	1	1
徳島	1	1	1	1
香川	1	1	1	1
愛媛	1	1	1	1
高知	1	1	1	1
福岡	1	1	1	1
大分	1	1	1	1
佐賀	1	1	1	1
熊本	1	1	1	1
宮崎	1	1	1	1
鹿兒島	1	1	1	1
沖繩	1	1	1	1
合計	49	45	49	45

別科生府縣及族別表

(三十三年九月末日調)

府縣	英語科		佛語科		獨語科		露語科		伊語科		西語科		清語科		韓語科		小計
	二年級	一年級	二年級	一年級	二年級	一年級	二年級	一年級	二年級	一年級	二年級	一年級	二年級	一年級	二年級	一年級	
北海道	三	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
東京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
大阪	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
神奈川	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
兵庫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
長崎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
新潟	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
埼玉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
群馬	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
千葉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
茨城	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
栃木	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
奈良	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
三重	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
愛知	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
靜岡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
山梨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
滋賀	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
岐阜	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
長野	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
宮城	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
福島	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
岩手	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
青森	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
山形	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
秋田	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
福井	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
石川	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
富山	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
鳥取	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
島根	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
岡山	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
廣島	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
山口	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
和歌山	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
徳島	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
香川	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
愛媛	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
高知	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
福岡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
大分	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
佐賀	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
熊本	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
宮崎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
鹿兒島	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
沖繩	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	六
合計	二	三	五	二	四	二	六	二	八	六	二	五	二	九	一	一	二五

明治三十四年二月十五日印刷
明治三十四年二月十八日發行

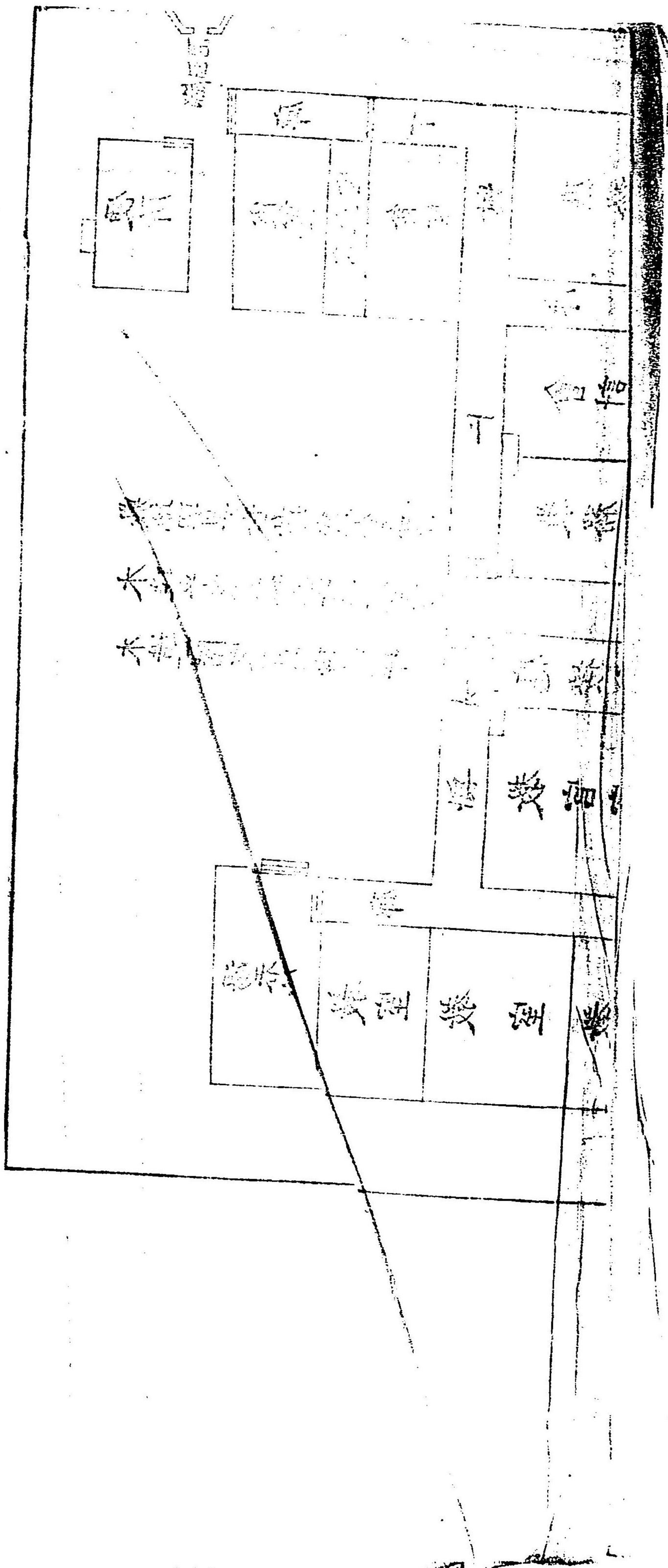
東京外國語學校

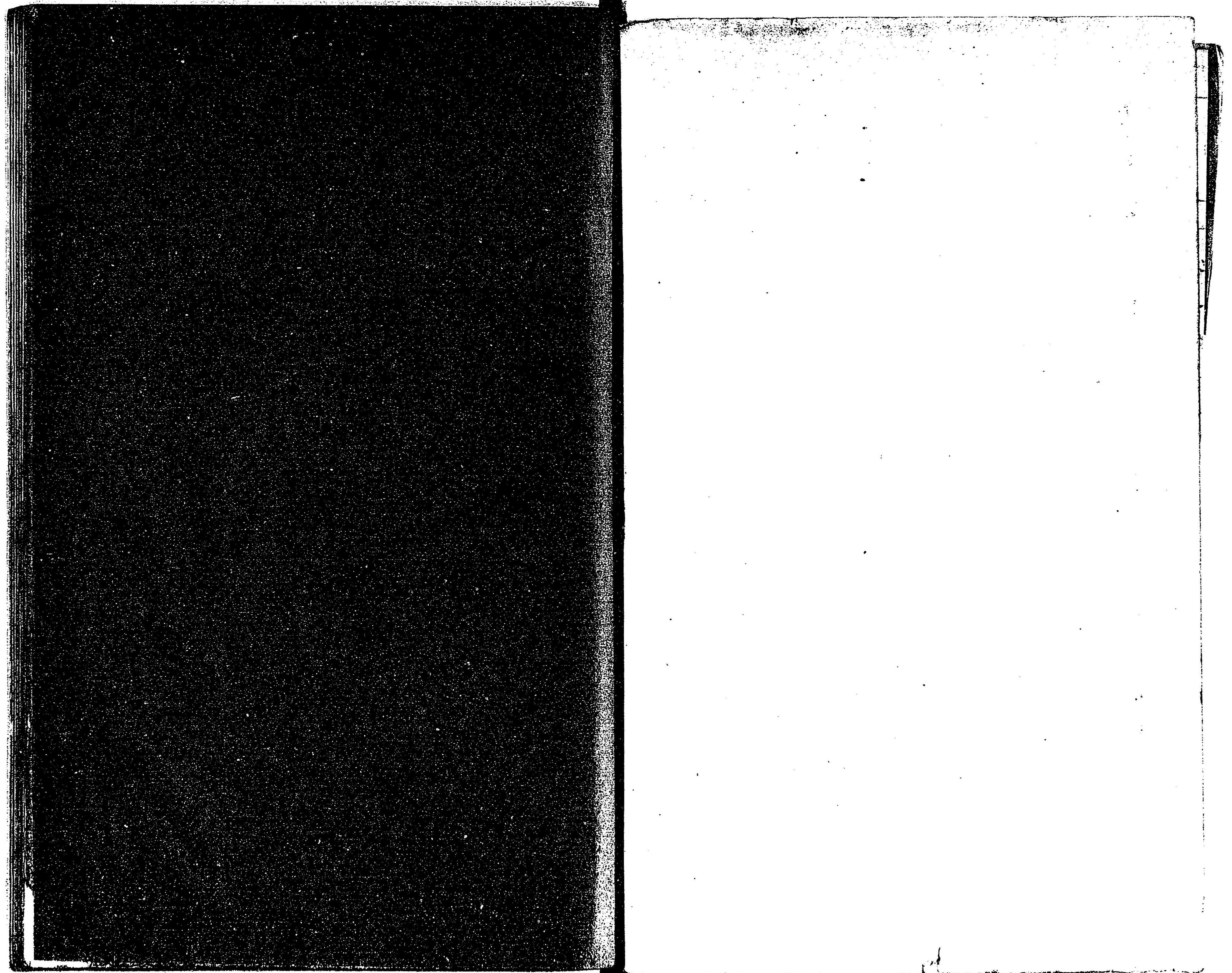
印刷者 佐藤正三

東京市麴町區飯田町
二丁目二十七番地

印刷所 明舍

全市日本橋區三代町
二丁目二番地



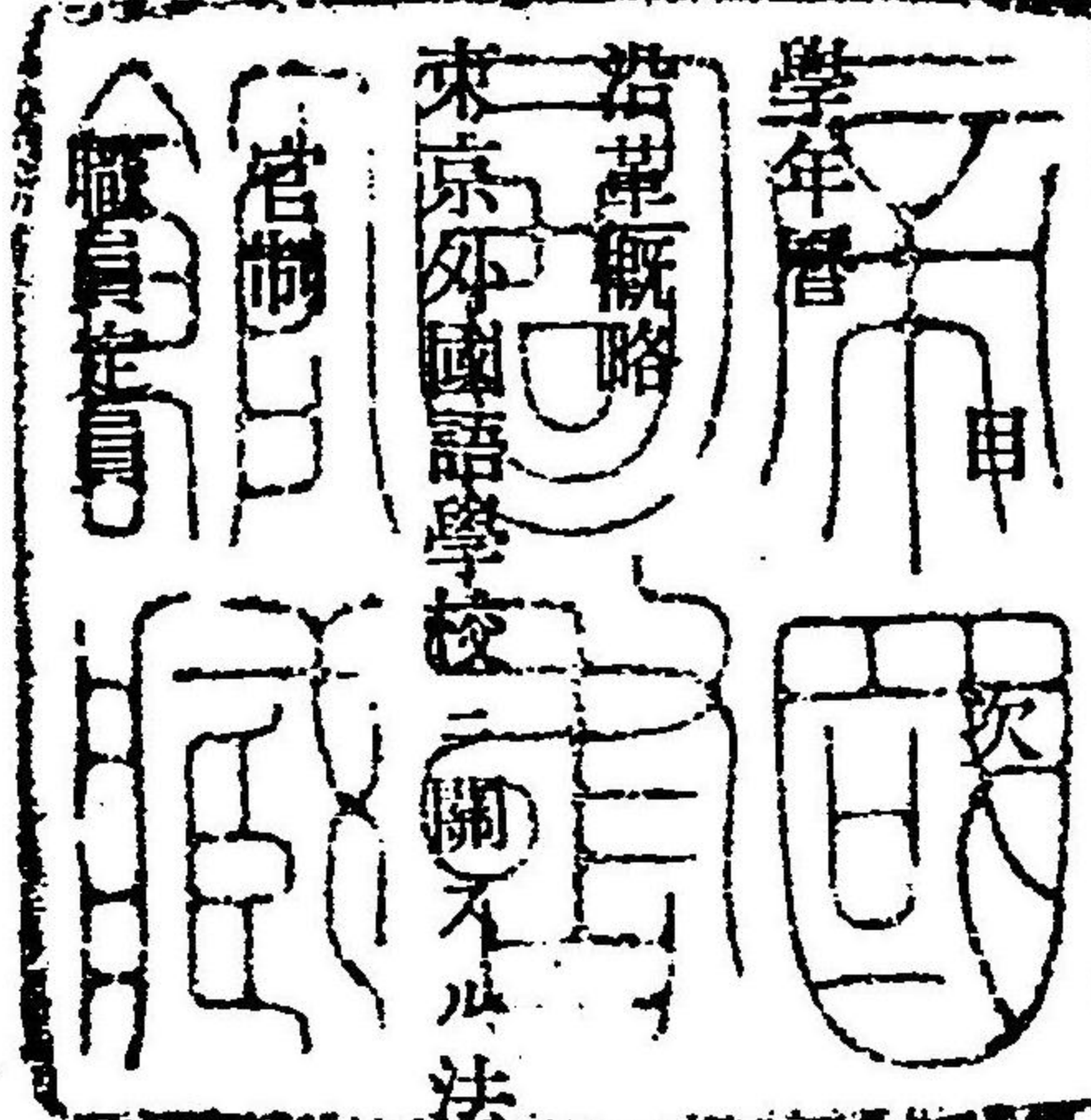


293

東京外國語學校一覽

從明治三十四年
至明治三十五年

東京外國語學校一覽



學年曆

沿革概略

東京外國語學校
關不山法令

官制

職員定員

高等官官等俸給令

雇外國人使用方

校長舍監特別任用令

本校職員

本校規則

總則

學科課程

學年學期及休業

入學在學及退學

試業進級及卒業

休學及缺席

授業料

特待生

貸費

委託生

研究生

撰科生

別科規定

生徒心得

懲罰

寄附金



生徒現員

生徒年齡表

卒業生及其就職ノ場所

別科生徒職業別

明治三十四年七月卒業式ニ於ケル演說祝詞等

附

生徒府縣別表

入學及卒業生徒累年比較表

本校略圖

東京外國語學校

覽

曆(自明治三十四年九月十一日
至明治三十五年九月十日)

三十四年九月十一日
同 九月廿三日
同 十月十七日
同 十一月三日
同 十一月廿五日
同 十二月十六日
同 十二月廿四日
同 十二月廿五日
三十五年一月七日
同 一月八日
同 一月三十日
同 二月十一日

第一學期始

休業(秋季皇靈祭)

同(神嘗祭)

同(天長節)

同(新嘗祭)

第一學期試業始

第一學期終

冬期休業始

冬期休業終

第二學期始

休業(孝明天皇祭)

同(紀元節)

學年曆

同	三月廿一日	同 (春季皇靈祭)
同	三月廿五日	第二學期試業始
同	四月三日	休業(神武天皇祭)
同	四月十日	第二學期終
同	四月十一日	第三學期始
同	六月十七日	學年試業始
同	七月十日	第三學期終
同	七月十一日	夏期休業始
同	九月十日	夏期休業終
同		學年終
每日曜日		休業

沿革概略

本校ハ明治三十年四月高等商業學校ニ附屬トシテ設ケラレ全月文部省直轄諸學校官制改正ニ依リ神田乃武主事ヲ命セラル全月文部省直轄諸學校職員定員改正ノ際本校ノ職員ヲ定メラル七月規則ヲ制定シ英佛獨露西清韓ノ七科ヲ設ケ生徒ヲ正科特別科ノ二種ニ區別シ正科ヲ三ヶ年特別科ヲ三ヶ年以内ノ修業年限トナシ九月ヨリ實施セリ全三十二年四月四日勅令第十六號ヲ以テ本校ヲ東京外國語學校ト改稱シ全日勅令第一百八號ヲ以テ本校職員定員ヲ定メラレ全月五日神田乃武校長心得ヲ命セラル此月校舍ヲ錦町三丁目十四番地ニ移シ規則ヲ改正シ伊語ノ一科ヲ加ヘテ八科トナシ更ニ副科ヲ置ク又特別科ヲ別科ト改メ其修業年限ヲ二ヶ年トナシ正科ヲ本科ト改メ此月ヨリ實施セリ全三十三年三月職員定員ヲ改正セラル全年四月七日校長神田乃武本官ヲ免セラレ全日文部省專門學務局長文學博士上田萬年校長事務取扱ヲ命セラル全年六月入學及貸費ニ關スル規則ヲ改正シ全年九月ヨリ之ヲ實施セリ全年十一月二十日東京帝國大學文科大學教授文學博士高楠順次郎校長兼務ヲ命セラル全三十四年四月規則ヲ改正シ副科語

學ヲ加ヘ又副科ニ四科ヲ増シ更ニ委託生研究生撰科生ニ關スル規程ヲ設ケ同年九月ヨリ之ヲ實施セリ

東京外國語學校ニ關スル法令

官制

勅令第八拾六號(明治廿六年八月廿四日)公布(明治卅年勅令第百八號(全卅二年勅令第百十七號(全卅三年勅令第八拾四號(全卅四年四月勅令第廿四號)ヲ以テ改正)

第一條 文部省直轄諸學校ハ高等師範學校女子高等師範學校札幌農學校高等商業學校第一高等學校第二高等學校第三高等學校第四高等學校第五高等學校第六高等學校第七高等學校造士館山口高等學校千葉醫學專門學校仙臺醫學專門學校岡山醫學專門學校金澤醫學專門學校長崎醫學專門學校東京高等工業學校東京外國語學校東京美術學校東京音樂學校大阪高等工業學校及東京盲啞學校トス

第六條 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ケ

校長

教授

助教授

書記

第七條 校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ受ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ

監督ス

第八條 教授ハ勅任又ハ奏任トス生徒ノ教授ヲ掌ル

助教授ハ判任トス教授ノ職務ヲ助ケ

第九條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第十七條 專任教官中其學校所設ノ某學科ヲ擔任スベキ者ヲ得ザル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

第十九條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設ケルコトアルベシ其委員ハ文部大臣之ヲ命ス

職員定員

勅令第八十七號明治二十六年八月二十四日全三十二年勅令第百十八號全三十三
年勅令第八十六號全三十四年三月勅令第二十五號ヲ以テ改正

第一條 文部省直轄諸學校職員ノ定員ハ左ノ如シ但シ兼任ハ此ノ限ニアラス

東京外國語學校

- 校長 一人
- 教授 十九人
- 助教授 十一人
- 書記 五人

高等官官等俸給令

勅令第百十九號明治三十二年四月四日公布

第一條 文部省直轄諸學校長ハ高等官二等以下六等以上トス

東京外國語學校長東京音樂學校長及東京盲啞學校長ハ高等官三等以下六等以
上トス

第二條 文部省直轄諸學校教官ハ高等官三等以下トス

第三條 文部省直轄諸學校ノ專任舍監ハ高等官四等以下トシ兼任舍監ハ本官ノ
官等ニ從フ

第五條 文部省直轄諸學校教官ハ其授業ノ時間及學科ノ難易輕重ニ依リ最低額
以下ノ年俸ヲ給スルコトアルベシ

第六條 文部省直轄諸學校教官ニシテ一校若クハ數校ノ教官ヲ兼任スル者ニハ
本官並兼官ニ於ケル授業ノ時間及學科ノ難易輕重ニ應シ其本官ノ俸給ヲ分割
シテ各學校ヨリ支給スルコトヲ得

第七條 文部省直轄諸學校官制第十五條ニ依リ某學科ノ授業ヲ擔任スル囑託講
師ニハ教官俸給額ノ内ヨリ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

雇外國人使用方

勅令第九十六號明治二十六年九月九日

帝國大學及文部省直轄諸學校ニ於テ學科教授ノ必要アルトキハ帝國大學總長及
直轄諸學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ雇外國人ヲシテ教官ノ職務ニ當ラシムル
コトヲ得

校長舎監特別任用令

勅令第百十三號明治三十年四月二十二日公布

文部省直轄諸學校長ハ一箇年以上奏任教官ノ職ニ在リタル者ニ限り全舎監ハ左ニ掲クル者ニ限り試験ヲ要セズ文官高等試験委員ノ詮衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

- 一、一箇年以上奏任教官又ハ奏任官待遇ノ教職ニ在リタル者
- 一、三箇年以上判任教官又ハ判任官待遇ノ教職ニ在リタル者

職員

校長

東京帝國大學文科大學教授

文學博士 高楠順次郎

兵庫縣士族

マスター、オフ、アーツ(オックスフォード大學)
ドクトル、フ、ロソフ、フ、マギステル、アルチウム、ボ、ノールム(ライプツヒ大學)

文學博士 高楠順次郎

兵庫縣士族

英語

ドクトル、オフ、ア、ロソフ、フ、(シカゴ大學)

淺田榮次

東京府士族

獨逸國留學中

山口小太郎

東京府士族

英語

高等師範學校教授

岡倉由三郎

東京府平民

獨語

ドクトル、ア、ロソフ、フ、マギステル、アルチウム、ボ、ノールム(ライプツヒ大學)

尺秀三郎

東京府士族

西國留學中

文學士 村上直次郎

大分縣平民

韓國留學中

文學士 金澤庄三郎

大阪府士族

獨語

水野繁太郎

岡山縣士族

露語

長谷川辰之助

東京府士族

國際法

マスター、オフ、ロース(エール大學)ドクトル、アン、シヤンス、ボリ、チツク、エ、アドミストラ、チ、(ブルグセル大學)

福岡秀猪

東京府華族

英語

村井知至

愛媛縣士族

獨語

文學士 武内大造

埼玉縣平民

伊語

伊東平藏

東京府士族

西語

篠田賢易

東京府士族

外國教師 就職順

清語

監生 金國璞

清國人

校長舎監特別任用令 職員

佛 西 韓 韓 露 清 獨 英 清 英 伊 佛
 語 語 語 語 語 語 語 語 語 語 語 語

パシエリエー、アカアミ、ド、マリ
 バチラー、エン、フネロソフ井ヤ、イ、レトラスイ、
 カチドラチコ

ポール、ジヤクレ
 フランシスコ、ケリソリヤ

佛 西 韓 韓 露 清 獨 英 清 英 伊 佛
 國 國 人 國 人 國 人 國 人 國 人 國 人 國 人 國 人

講師 就職順

ドクトル、オフ、フネロソフ井ヤ（ホストン大學）

ジー、エツチ、ホースウエル

米 國 人

監生

張 孝 移

清 國 人

子 冲 漢

清 國 人

エミール、ハリヤ

獨 國 人

パーウエル、スマイスロウスキ

露 國 人

趙 慶 協

韓 國 人

柳 苾 根

韓 國 人

宮 島 大 八
 神 藤 才 一

山形縣士族
 神奈川縣平民

佛 漢 獨 漢 露 露 經 西 佛 佛 教 清 佛
 語 文 語 文 語 語 濟 語 語 語 語 育 語 語

助教授

文學士

長 井 行

東 京 府 平 民

文學士

上 田 整 次

北 海 道 平 民

陸軍教授

三 矢 重 松

山 形 縣 平 民

法學士

小 島 泰 次 郎

東 京 府 平 民

法學士

藤 堂 紫 郎

東 京 府 平 民

法學士

神 戶 正 雄

愛 知 縣 士 族

法學士

甘 利 造 次

靜 岡 縣 士 族

法學士

市 野 良 雄

東 京 府 士 族

法學士

織 田 信 義

東 京 府 士 族

文學士

村 上 辰 午 郎

石 川 縣 士 族

岡 本 正 文

愛 媛 縣 士 族

職 員

十 一

韓語	本田 存	東京府士族
西語	金澤 一郎	兵庫縣士族
獨語	田代 光雄	東京府士族
露語	五十嵐 清	岡山縣士族
英語	上條 辰藏	長野縣平民
體操	土田 半六	東京府平民
體操	長谷川 福橘	東京府平民
體操	村上 久吉	廣島縣平民
囑託	高等商業學校助教授	
衛生監督	陸軍一等軍醫 藤村 富三郎	京都府平民
柔道及擊劍教師	鈴木 鏡造	東京府平民
書記	小澤 銀十郎	長野縣士族
會計主任	成田 文太夫	宮城縣士族
庶務掛兼教務掛		

教務掛兼庶務掛	入部 龜治	鹿兒島縣士族
會計掛	秋山 運四郎	宮城縣平民
圖書掛	西村 正立	東京府士族
職員	高等商業學校書記	
教務掛	松岡 辰治郎	奈良縣平民
庶務掛	生野 友尙	東京府士族
會計掛	宮定 平	廣島縣平民

東京外國語學校規則 (明治三十四年四月改正)

第一章 總則

第一條 本校ハ外國語ニ熟達シ實務ニ適スベキ者ヲ養成スル目的ヲ以テ歐洲及東洋ノ近世語ヲ教授スル所トス

現今ニ於テハ英語、佛語、獨語、露語、伊語、西語、清語、韓語ヲ教授ス

第二條 本校生徒ノ修業年限ハ三箇年トス

第三條 本校ニ別科ヲ置クソノ規定ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 學科課程

第四條 本校ノ學科及課程左ノ如シ

各語學科課目及每週授業時數表

目	正科語學			副科			第一學科	第二學科	第三學科	第四學科	第五學科
	英	佛	獨	英語	佛語	獨語					
第一學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(英)	(佛)	(獨)	(露)	(伊)
第二學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(露)	(伊)	(西)	(清)	(韓)
第三學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(清)	(韓)	(日)	(法)	(德)
第四學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(法)	(德)	(日)	(英)	(佛)
第五學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(佛)	(獨)	(英)	(佛)	(獨)
第六學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(獨)	(英)	(佛)	(獨)	(英)
第七學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(英)	(佛)	(獨)	(英)	(佛)
第八學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(佛)	(獨)	(英)	(佛)	(獨)
第九學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(獨)	(英)	(佛)	(獨)	(英)
第十學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(英)	(佛)	(獨)	(英)	(佛)
第十一學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(佛)	(獨)	(英)	(佛)	(獨)
第十二學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(獨)	(英)	(佛)	(獨)	(英)
第十三學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(英)	(佛)	(獨)	(英)	(佛)
第十四學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(佛)	(獨)	(英)	(佛)	(獨)
第十五學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(獨)	(英)	(佛)	(獨)	(英)
第十六學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(英)	(佛)	(獨)	(英)	(佛)
第十七學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(佛)	(獨)	(英)	(佛)	(獨)
第十八學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(獨)	(英)	(佛)	(獨)	(英)
第十九學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(英)	(佛)	(獨)	(英)	(佛)
第二十學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(佛)	(獨)	(英)	(佛)	(獨)
第二十一學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(獨)	(英)	(佛)	(獨)	(英)
第二十二學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(英)	(佛)	(獨)	(英)	(佛)
第二十三學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(佛)	(獨)	(英)	(佛)	(獨)
第二十四學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(獨)	(英)	(佛)	(獨)	(英)
第二十五學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(英)	(佛)	(獨)	(英)	(佛)
第二十六學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(佛)	(獨)	(英)	(佛)	(獨)
第二十七學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(獨)	(英)	(佛)	(獨)	(英)
第二十八學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(英)	(佛)	(獨)	(英)	(佛)
第二十九學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(佛)	(獨)	(英)	(佛)	(獨)
第三十學科	一八	一八	一八	(四)	(四)	(四)	(獨)	(英)	(佛)	(獨)	(英)

計	體操	言語學
二七	三	
二八	三	(二)*
二八	三	(二)*
二七	三	
二八	三	(二)*
二八	三	(二)*
二八	三	
二九	三	(一)
二九	三	(一)

注意

一、正科語學第二年若クハ第三年ニ於テハ當該各國ノ歴史地理及文學ノ大要ヲ教授スルコトヲ要ス

二、表中()印ヲ附シタルモノハ隨意撰修スルヲ得撰修セル學科ハ總テ必修科トナシ正科語學體操ト全一ニ取扱フモノトス

第一項 英佛獨露伊西語學科ニ於テハ通常一週四時ノモノ一科及一週三時ノモノ一科若クハ一週二時ノモノ一科ト一週一時ノモノ一科ヲ撰修スルモノトス但前學年總評點ニ於テ平均七十點以上ヲ得タルモノハ許可ヲ經テ更ニ一科ヲ加フルコトヲ得

第二項 表中*印ヲ附シタル學科ハ一學年ニ於テ完結スベキモノトス故ニ次學年ニ於テ全一ノ學科ヲ撰ブコトヲ得ス

第三項 清韓語學科ニ於テハ通常一科ヲ撰修スルモノトス更ニ一科ヲ兼修セントスルモノハ第一項但書ニ準シテ許可ス

三、以上各學科ノ外委託生、研究生、ソノ他ノ生徒ノ爲臨時科外講義ヲ開キ必要ナル補修學科ヲ授クルコトアルベシ

第五條 本校生徒ニシテ第二等級以上ノモノハ學校長ノ認可ヲ經テソノ所修學科以外ノ別科ヲ兼修スルコトヲ得

第三章 學年、學期及休業

第六條 學年ハ九月十一日ニ始リ翌年九月十日ニ終ル

第七條 學年ヲ分テ左ノ三學期トス

第一學期 自九月十一日至十二月二十四日

第二學期 自一月八日至三月三十一日

第三學期 自四月十一日至七月十日

第八條 年中休業日左ノ如シ
一日 曜日

一 秋季皇靈祭

秋分日

一 神嘗祭

十月十七日

一 天長節

十一月三日

一 新嘗祭

十一月二十三日

一 孝明天皇祭

一月三十日

一 紀元節

二月十一日

一 春季皇靈祭

春分日

一 神武天皇祭

四月三日

一 夏期休業

自七月十一日至九月十日

一 冬期休業

自十二月廿五日至翌年一月七日

一 春期休業

自四月一日至全月十日

第四章 入學、在學及退學

第九條 入學期ハ每學年ノ始トス

但必要ノ場合ニ於テハ或語學ニ限リ臨時入學ヲ許スコトアルベシ

第十條 本校ハ事宜ニ依リ所定語學中一語學科若クハ數語學科ノ生徒募集ヲ爲サマルコトアルベシ

第十一條 中學校卒業生ニシテ品行方正身體健全ナルモノハ試験ヲ要セズシテ第一年級ニ入學ヲ許ス

但志願者ノ數豫定人員ニ超過シタルトキハ競争試験ヲ行フ入學志願者豫定人員ニ滿タザルトキハソノ他ノ志願者ニシテ入學試験ニ合格シタル者ヲ以テ之ヲ補フ

第十二條 中學校卒業後三ケ年ヲ經過シタル者ニ對シテハ事宜ニ依リ入學試験ヲ施行スルコトアルベシ

第十三條 入學試験ハ中學校卒業ノ程度ニ依リ中學校所定ノ全學科ニ就キ之ヲ行フ

中學校卒業生ノ競争試験ハ左ノ四科目ニ就キ之ヲ行フ

- 一、國語漢文
- 二、地理
- 三、歴史
- 四、外國語

第十四條 第二年級以上ニ入ラント欲スル者ハ先ツ第一年級ニ入ルニ必要ナル

資格ヲ檢定シ尋テソノ志望學級以下ノ各級ノ課目ニ就キテ試験ヲ行ヒ入學ノ許否ヲ定ム

第十五條 退學ヲ爲シタル者曾テ學修セシ語學科ニ再入學ヲ出願スルトキハ入學期ニ於テ試験ヲ須非ス原級若クハソノ以下ニ入學ヲ許スコトアルヘシ

第十六條 入學志願者ハ第一號及第二號書式ニ準シタル入學願書、履歷書ニ卒業シタル當該學校長ノ卒業證明書ヲ添ヘ指定ノ期日ニ於テ本校ヘ差出スヘシ

第十七條 中學校卒業生ニシテ入學ヲ許可セラレタルモノハ入學料金壹圓五拾錢ヲ納付スヘシ

中學校卒業生ニ非ザル入學志願者ハ出願ノ際試験料金三圓ヲ納付スヘシ但既納ノ試験料ハ試験ヲ受ケザルコトアルモ返付セス

第十八條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ第三號書式ニ準シタル在學證書ヲ差出スヘシ

第十九條 正副保證人ハ丁年以上ノ男子ニシテ東京府内ニ居住シ一家計ヲ立ツル者又ハ本校ニ於テ殊ニ適當ト認ムル者ニ限ル但正副保證人ノ中一名ハ父兄

若クハ後見人ニシテ東京府外ニ居住セルモノヲ以テ之ニ充ツルモ妨ナシ
 保證人死去若クハ前項ノ資格ヲ失ヒタルトキハ速ニ他人ヲ以テ之ニ代ヘ更ニ
 在學證書ヲ差出スヘシ保證人旅行ヲ爲サントスルトキ又ハ轉居改印等ヲ爲シ
 タルトキハソノ旨届出ツヘシ旅行ノ場合ニ於テハ代理人ヲ定ムルコトヲ要ス
 第二十條 在學中ハ他ノ語學科ニ轉スルコトヲ得ズ
 第二十一條 疾病等ノ故ヲ以テ成業ノ見込ナキ者ニハ退學ヲ命シ出席極メテ不
 規則ナル者若クハ二學年ヲ超ユルモ尙進級スルコト能ハザル者ハ除名ス
 第二十二條 退學セント欲スル者ハソノ事由ヲ詳記シ(病氣ノ場合ニハ醫師ノ診
 斷書ヲ添ヘ)保證人連署ノ上出願スヘシ

第一號書式 (用紙美濃紙)

入學願書

私儀御校何語學科本科(別科)第何年級へ入學志願ニ付御許可被成下度別紙履歷
 書并ニ卒業證明書相添ヘ此段相願候也

本籍族職業(戸主ニアラサル者ハ
 何某男又ハ弟等)

年月日

氏

名印

何年何月何日生

現住所

東京外國語學校長宛

第二號書式 (用紙美濃紙)

履歷書

學業

一何年何月何地官(公私)立何學校ニ入り何學科何年級修業或ハ全學科卒業又ハ
 何某ニ從ヒ何學何年間受業用書何々

(卒業證書ヲ有スル者ハソノ寫ヲ添付スヘシ)

賞罰

一何年何月何所ニ於テ何々ニ付賞又ハ罰ヲ受ク
 以上

年月日

氏

名印

第三號書式 (用紙美濃紙)

東京外國語學校規則

在學證書

私儀今般御校へ入學御許可相成候ニ付テハ御規則等堅ク相守リ猥リニ轉校轉科退學等仕間敷候仍テ證書如此候也

本籍族(職業) (戶主ニアラサル者ハ何某男又ハ弟等)

年月日

氏

名印

何年何月何日生

現住所

東京外國語學校長宛

右何某今般入學致候ニ付テハ全人在學中ニ係ル一切ノ事件ハ拙者共ニ於テ引受可申候仍テ保證如此候也

族籍職業

正保證人

氏

名印

住所

族籍職業

副保證人

氏

名印

住所

前書正副保證人何某ハ丁年以上ニシテ當郡區内ニ居住シ一家計ヲ立ツル者ニ相違無之候也

年月日

何郡區長

氏

名印

注意 父兄又ハ後見人ニシテ保證人タルモノハ郡區長ノ證明ヲ要セス

第五章 試業、進級及卒業

第二十三條 試業ヲ分テ學期試業及學年試業ノ二種トス

第二十四條 學期試業ハ第一學期及第二學期ノ終リニ於テ該學期間履修シタル課目ニ就キ之ヲ施行ス

第二十五條 學年試業ハ第三學期ノ終ニ於テ該學年間履修シタル課目ニ就キ之ヲ施行ス

第二十六條 評點ハ各課目一百ヲ以テ最高點トス

第二十七條 各課目ノ學期評點ハ學期試業點ト日課評點トヲ合算シテ之ヲ定ム